

第3章 研究開発の内容

1 教育課程の研究と学校設定科目の取組

(1) 研究開発の概要と教育課程について

① 研究開発の概要について

「使命感と実行力をもって“未来”を“創造”するグローバル・リーダー育成カリキュラムの研究開発」

大学や国際機関、企業と連携しながら、生徒が主体的にグローバルな課題を扱った研究に取り組む。

幅広い知識とグローバルな視点に立った探究活動を実施するとともに、その成果を留学生や大学生なども参加して3年次の夏期に開催する「未来創造会議」で提案、議論することによって、創造力や企画力、表現力を養う。採択された「未来を創造するための3つの行動宣言」に基づき行動を起こすことで使命感・実行力をもつリーダーの育成を図る。この「未来創造会議」に向けたコミュニケーション能力の育成のために様々な言語活動を実施するとともに、留学生の積極的な受け入れや海外交流校との研究交流や、海外交流校との研修プログラム、留学の奨励、海外研修旅行の実施など、外国人生徒と意見交換できる機会を増やすことで、幅広い視野に立って、異なる価値観をもつ人々と協働しながら問題解決を目指す力の育成を図る。

これらの取組を通して、文化や言語が異なる人々と協働できる、使命感・実行力をもつ国際人の育成を図る。

② 教育課程の概要

本校では、次に挙げる5つの点を基本的な方針として、教育課程を編成している。

- ・ 学習指導要領の趣旨に従い、多様な教科・科目を設け、生徒が選択して履修できるよう配慮する。
- ・ 生徒の適性・進路希望等に応じて一人ひとりの個性を伸ばすため、第2学年から文・理の2類型に分け、第3学年には教科・科目を適正に配置したコースを設けて、適切な選択を可能にするとともに選択の幅を広げる。
- ・ 文・理の各類型の特色がでるように教科・科目の配列を工夫し、充実した学習活動を展開できるようにする。
- ・ 各教科・科目の単位数配当にあたっては、他の教科・科目との関連を図りながら十分な学力養成ができるよう考慮する。
- ・ S G Hに関する事業を推進するために、学校設定教科・科目を設置して、より横断的、探究的な学習活動を生徒一人ひとりが主体的に取り組むことができるように考慮する。各類型の特徴を、以下に述べることにする。

文型… 文系学部（文、経済・経営、社会、法などの各学部）への進学を目指す類型で、国語・地歴公民・英語に重点を置く編成となっている。

3学年において、芸術Ⅲを選択することができる。

理型… 理系学部への進学を目指す類型で、数学・理科に重点を置く編成となっている。

3学年において、理Ⅰコースと理Ⅱコースを選択する。

理Ⅰコースは、理学、工学、医（医学科）学、薬学、農学などの各学部を、理Ⅱコースは、生活科学、医療系の各学部をそれぞれ目指すコースとなっている。

また、授業時数を確保するとともに、外部講師の招聘や保護者・地域との連携の機会を増加させるため、毎月2回の土曜日を授業日として設定している。

③ 必要となる教育課程の特例等

本校が考えるグローバル・リーダーの資質（責任力、創造力、企画力、表現力、対話力、情報活用力）を生徒一人ひとりに確実に身に付けさせ、文化や言語の異なる人々と協働できる使命感・実行力をもつ国際人の育成を目指すためには、教育課程の特例措置が必要となり、具体的には以下の通りとした。

- 生徒自らが現代社会の諸問題を課題研究し、さらにそれを発展的に研究する教科・科目を設定した。

〈「現代へのあゆみ」〉（第1学年・3単位 全員必履修）

「世界史A」、「日本史A」（2単位）と「社会と情報」（1単位）を代替。

（目的）近現代の歴史を多種多様な資料を用いて考察させ、歴史的な見方や考え方を身に付けさせ、歴史的視野から考察する能力を培うことを目的とする。また、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力等を養うことを目的とする。

〈「現代の課題」〉（第2学年・3単位 全員必履修）

「現代社会」（2単位）と「社会と情報」（1単位）を代替。

（目的）現代社会の諸課題を広い視野に立って主体的に考察できる力を養うとともに、人間としての在り方、生き方について考察する力を養う。ディスカッションやディベートを通して、自分が集めた情報を分析整理し、自分の考えをまとめて議論する中でコミュニケーション力を付け、他人に自分の意見を伝えられるプレゼンテーション能力を養う。

〈「現代の課題α」〉（第2学年・1単位 選択履修）

（目的）より深く、専門性をもった研究を継続・発展的に行う。また、第3学年に開催する「未来創造会議」における企画・運営の中心的な人材の育成を図ることにより、グローバルコミュニケーション能力や企画力を養い、リーダーとしての自覚と責任感・使命感を培う。

- グローバルコミュニケーション力を育成する教科・科目を設定した。

〈「グローバル国語」〉（第1学年・1単位 全員必履修）

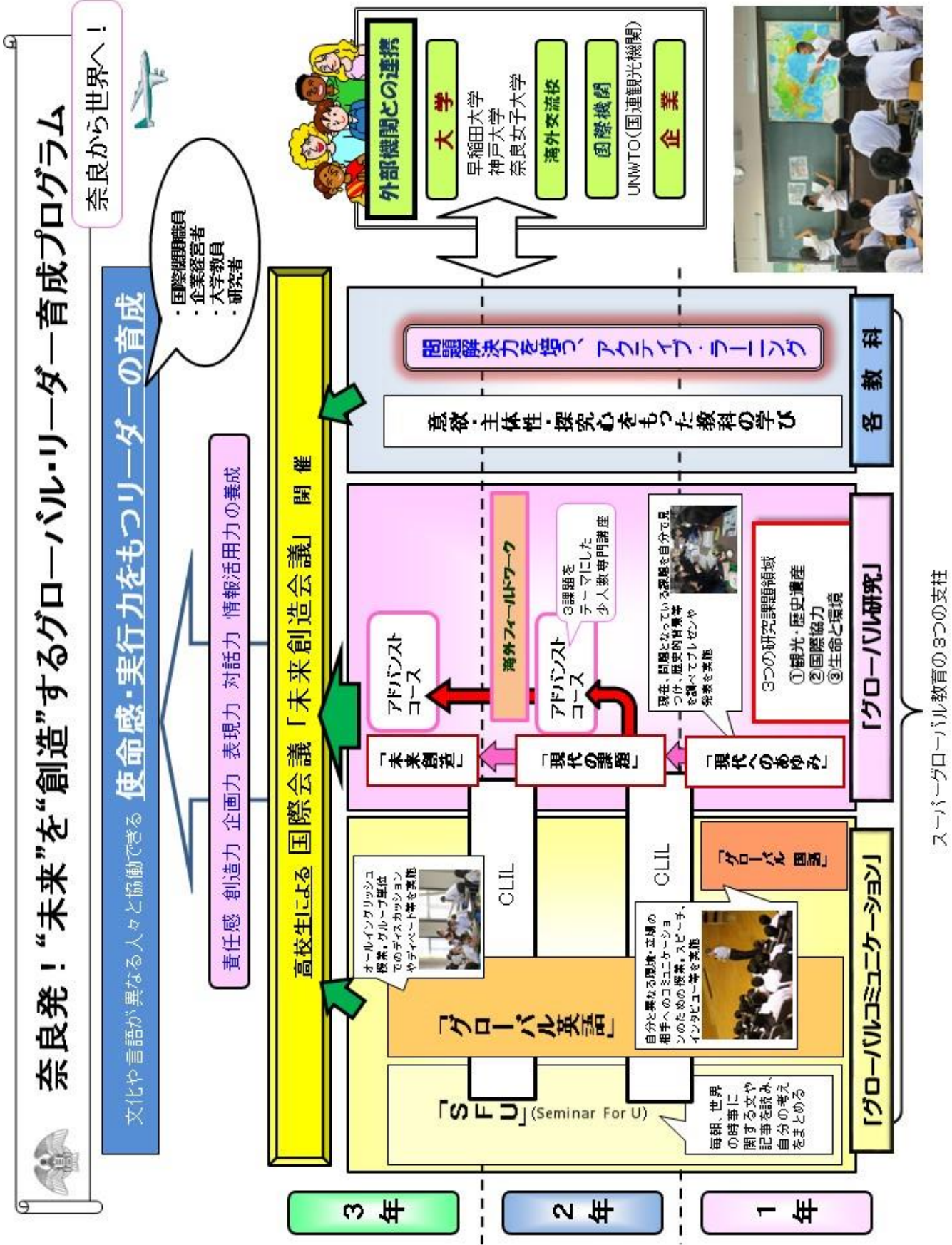
（目的）異文化コミュニケーションをテーマとして「話すこと・聞くこと」の領域に特化した言語活動により、自分と異なる立場にある相手とコミュニケーションを取って、協力しながら問題解決に導く方法を体験的に学ぶことで、課題研究におけるディスカッションやディベート活動、発表や報告などの活動の基盤となる努力を育成する。

〈「グローバル英語」〉（第1、第2、第3学年各1単位 全員必履修）

（目的）CLIL（内容言語統合学習）の手法をもとに、3つの課題研究のテーマについての発表プロジェクトを設定し、そのための資料として社会の中で実際に使われている英語を自ら検索する機会をもつ。

〈「SFU (Seminar For U)」〉（第1学年・1単位 全員必履修）

（目的）課題研究のテーマを中心とした文章を継続的に読み、疑問点や気付きをまとめることにより、幅広い視野と現代の諸問題に関する探究心を養う。指導計画に基づき、月曜日から金曜日までの登校直後の10分間に設定する。



スーパーグローバル教育の8つの支柱

平成30年度 入学生徒の教育課程表

奈良県立畷傍高等学校 全日制課程普通科

区分	教科	学科・類型		普通科 - 文型				普通科 - 理型				備考
		標準 科目	単位 数	1	2	3	計	1	2	3 I II	計	
各 教 科	国 語	国語総合	4	4				4				2, 3年次を通して、世界史B・日本史B・地理Bから1科目を継続履修する。 1年次の数学Ⅱは、数学Ⅰを履修した後に履修をする。 理型2年次の数学Ⅲは、数学Ⅱを履修した後に履修する。 2年次理型の化学は、化学基礎を履修した後に履修をする。 理型3年次は、2年次に選択した科目を継続して履修する。 音楽・美術・書道から1科目を継続履修する。 現代へのあゆみは世界史A、日本史A 2単位と社会と情報1単位を代替する学校設定科目である。 現代の課題は現代社会2単位と社会と情報1単位を代替する学校設定科目である。 現代の課題αは希望者による夏期休業等におけるまとめ取りである。
		国語表現A	3									
		現代文A	2									
		現代文B	4		2	3	16		2	2	12	
		古典A	2									
		古典B	4		3	2			2	2		
	地 理 歴 史	世界史演習A	2									
		世界史演習B	4									
		日本史A	2									
		日本史B	4		3	3	6		2	3	5	
		地理A	4									
		地理B	4									
		世界史演習	2									
		日本史演習	2									
	公 民	現代社会	2					2				
		倫理・政治・経済	2			2	4				0	
	数 学	数学Ⅰ	3	3				3				
		数学Ⅱ	4	1	2	3	13	1	3		18	
		数学Ⅲ	5						1	4		
		数学A	2	2				2				
数学B		2		2				2				
数学活用		2										
数学演習α		3								3		
数学演習β		2							2	18		
数学演習γ		3								3		
数学演習Ⅰ		2				12				3		
理 科	科学と人間生活	2										
	物理基礎	2	2				2					
	物理	4										
	化学基礎	2		3				2				
	化学	4						2	2	4		
	生物基礎	2	2				2					
	生物	4										
	地理学基礎	2										
	理科課題研究	1										
	物理基礎演習	1		1								
保 体 育	体育	7~8	2	2	3	9	2	2	3	9		
	保健	2	1	1			1	1				
芸 術	音楽Ⅰ	2										
	美術Ⅰ	2	2				2					
	書道Ⅰ	2										
	音楽Ⅱ	2										
	美術Ⅱ	2		2								
	書道Ⅱ	2										
外 国 語	コミュニケーション英語基礎	2										
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3				3					
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3				3				
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			3				3			
	英語表現Ⅰ	2	2				2					
	英語表現Ⅱ	4		2	2			2	2			
家 庭	家庭基礎	2	2				2					
	家庭生活デザイン	4								2		
情 報	社会と情報の科学	2								0		
グ ロー バ ル コ ミュ ニ カ シ ョ ン	グローバル国語	1	1				1					
	グローバル英語	3	1	1	1	5	1	1	1	5		
	SFU	1	1				1					
グ ロー バ ル リ サ ー チ	現代へのあゆみ	3	3				3					
	現代の課題	3		3				3		6		
	現代の課題α	1		1※				1※		7		
各教科・科目計				32	30・31	30	92・93	32	30・31	30	92・93	
総合的な学習の時間 奈良TIM E 未来創造					1	1	2		1	1	2	
各教科・科目等計				32	31・32	31	94・95	32	31・32	31	94・95	
特別活動 ホームルーム活動				1	1	1	3	1	1	1	3	
合計				33	32・33	32	97・98	33	32・33	32	97・98	
(注)				文科系の科目に重点をおいた類型。 アから1科目選択する。 イから1科目選択する。				理科系の科目に重点をおいた類型。				

平成30年度における1・2・3学年の教育課程表

奈良県立畝傍高等学校 全日制課程普通科

区分	教科	標準	学科・類型	学年	普通	普通	普通	普通	普通	備考	
					共通	文型	理型	文型	理型		
					1 (10)	2 (5)	2 (5)	3 (4)	3 (6) I II		
各 科	国 語	国語	総合表現	4	4						<p>2年次には、世界史B、日本史B、地理Bから1科目を選択して履修する。 3年次は、2年次選択のB科目を継続履修する。</p> <p>1年次の数学Ⅱは、数学Ⅰを履修した後に履修をする。 理型2年次の数学Ⅲは、数学Ⅱを履修した後に履修する。</p> <p>2年次理型の化学は、化学基礎を履修した後に履修をする。 理型3年次は、2年次に選択した科目を継続して履修する。</p> <p>音楽・美術・書道から1科目を継続履修する。</p> <p>現代へのあゆみは世界史A、日本史A2単位と社会と情報1単位を代替する学校設定科目である。 現代の課題は現代社会2単位と社会と情報1単位を代替する学校設定科目である。 現代の課題αは希望者による夏期休業等におけるまとめ取りである。</p>
			現代文B	4	2	2	3	2			
			古典	4	3	2	2	2			
			古典演習	2			2				
	地 理	世界史	世界史A	2							
			世界史B	4							
			日本史A	2							
			日本史B	4	3	2	3	3			
	公 民	現代社会	現代社会	2							
			倫理	2							
			政治	2							
			経済	2			2				
	数 学	数学	数学Ⅰ	3	3						
			数学Ⅱ	4	1	2	3	3			
			数学Ⅲ	5			1		4		
			数学A	2	2						
			数学B	2		2	2				
			数学演習α	3					3		
			数学演習β	2					2		
			数学演習γ	3					3		
理 科	科学	科学	2								
		物理基礎	2	2							
		物理	4								
		化学基礎	2		3						
		化学	4		2	2		4			
		生物基礎	2	2							
		生物	4								
		理科課題研究	1								
保 体 育	体育	体育	7~8	2	2	2	3	3			
		保健	2	1	1	1					
芸 術	音楽・美術・書道	音楽Ⅰ	2								
		美術Ⅰ	2	2							
		書道Ⅰ	2								
		音楽Ⅱ	2								
		美術Ⅱ	2	2							
		書道Ⅱ	2								
外 国 語	英語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3							
		コミュニケーション英語Ⅱ	4		3	3					
		コミュニケーション英語Ⅲ	4				3	3			
		英語表現Ⅰ	2	2							
		英語表現Ⅱ	4	2	2	2	2				
		英語会話	2								
		英語演習α	2					12			
		英語演習β	2					12			
家 庭	家庭生活	家庭基礎	2	2							
		総合	4								
情 報	社会と情報	社会と情報	2								
		情報の科学	2								
ケ ー ミ ュ ニ シ ョ ン バ ル	グローバル	グローバル国語	1	1							
		グローバル英語	3	1	1	1	1	1			
		SFU	1	1							
研 究 ロ ー バ ル	現代へのあゆみ	現代へのあゆみ	3	3							
		現代の課題	3		3	3					
		現代の課題α	1		1※	1※					
各教科・科目計					32	30・31	30・31	30	30		
総合的な学習の時間		奈良TIME 未来創造				1	1			「奈良TIME」を総合的な学習の時間において、第2学年に実施する。	
各教科・科目等計					32	31・32	31・32	31	31		
特別活動		ホームルーム活動			1	1	1	1	1		
合計					33	32・33	32・33	32	32		
(注)										アから1科目選択する。 イから1科目選択する。	

(2) 学校設定科目「SFU」について

【SFUとは】

「Seminar For U」を省略した呼び名で、生徒のための（for You）、Ultimate（究極の。最高の。）、Unique（唯一の。類のない。）、Upgrade（昇格させる。格上げする。）Useful（有用な。効果的な。）の、4つのU（four U）をイメージしたセミナー（Seminar）のことである。

<対象・単位数> 第1学年・1単位

<目的>

課題研究のテーマを中心とした文章を継続的に読み、疑問点や気付きをまとめることにより、幅広い視野と現代の諸問題に関する探究心を養う。また現代社会の諸問題について、興味・関心をもち、自ら進んで課題を探究しようとする姿勢やクリティカルシンキングを身に付ける。

<実施方法>

年間指導計画に基づき、月曜日から金曜日までの登校直後の10分間、課題研究のテーマを中心とした文章（和文、又は英文）を読み、疑問点や気付きを短文にまとめる。2日間で1つのテーマ（テキスト2ページに相当）に取り組む。その際過去の反省点を踏まえ、1日目は本文の内容を読解する手助けになるように、部分要約、重要ポイントの抜き出しなどができるシートを作成した。段階を踏んで徐々に自分で概略を把握し、文章化できるところを目指した。2日目は、1学期は自分の感想や気付いたことを自由に書かせることから始め、徐々にテーマを絞って考えるようなシートを作成した。また、クラスによっては自分の意見を発表させる時間を設け、自己の主張を他へ伝えることによってコミュニケーション力を養う機会のひとつとした。

課題研究に関連した現代の諸問題に関して、課題意識をもって多角的に考え、自分の考えや意見をまとめることを継続的に実施し、「グローバル国語」「グローバル英語」「現代のあゆみ」と複合的に取り組むことによって、螺旋状に力をつけていくことを目指した。

<実施上の留意点>

- ・ワークシートに毎回記入させ、教材プリントと共にファイルに綴じさせる。
- ・和文、英文いずれのテキストに関しても、分かりにくい語句について辞書を引いて確認させる。
- ・10分間以内でシートの記入が終わっても、何度も本文を読み返して自分のものとすることを促し、他の勉強はさせないものとする。
- ・遅刻等により、抜けてしまった部分は、生徒各自が自分の空き時間等に読んで、シートに記入しておくように指示する。
- ・定期考査ごとを目安として提出をさせて、点検し、可能な限り生徒の記入内容に対してコメントを付けるようにする。

<実施内容>

使用教材は下記の通りである。なお、本校では毎月1回「人権を確かめ合う日」として、人権問題に関わる新聞記事を読んで話し合う日を設けている。この内容もSFUの時間に実施した。

【使用教材】

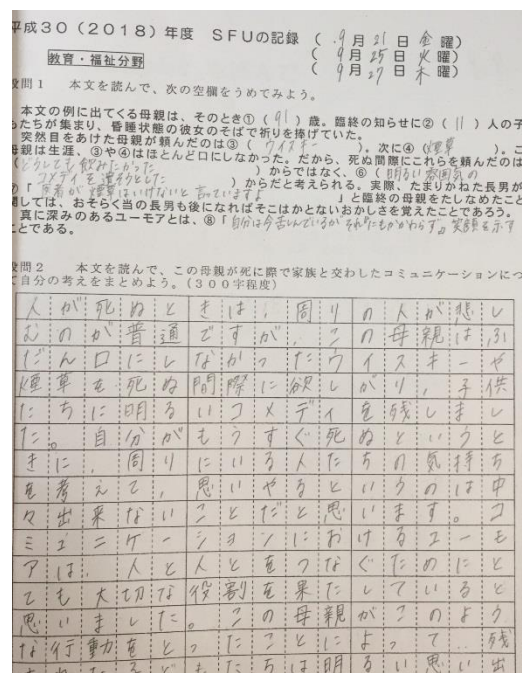
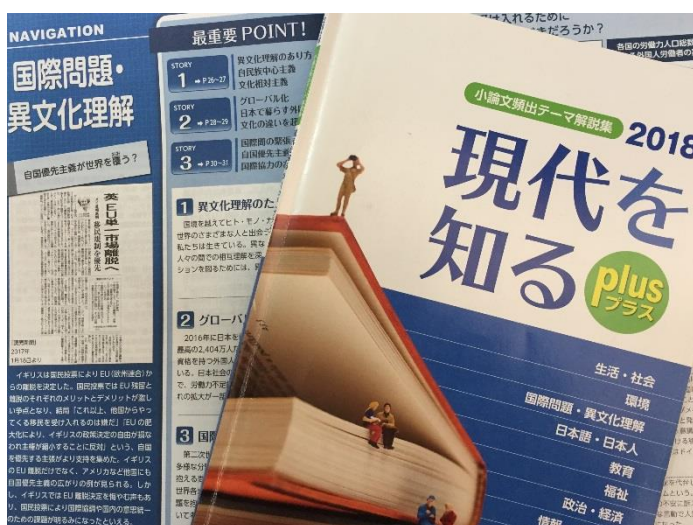
- ・小論文頻出テーマ解説集『2018 現代を知る plus』（第一学習社）
- ・NEWSBREAKS for BASIC English Learners 2017（エミル出版）
- ・NEWSBREAKS for STANDARD English Learners 2018（エミル出版）



【実施期間・内容・生徒の実践例】

使用教材：小論文頻出テーマ解説集『2018 現代を知る plus』（第一学習社）

期 間	内 容
4 / 17 (火) ~ 4 / 27 (金)	「生活・社会」
5 / 1 (火) ~ 5 / 16 (水)	「環境」
5 / 17 (木) ~ 6 / 1 (金)	「国際問題・異文化理解」



使用教材：NEWSBREAKS for BASIC English Learners 2017 (エミル出版)

期 間	内 容
6 / 5 (火) ~ 6 / 6 (水)	「スポーツ」
6 / 7 (木) ~ 6 / 8 (金)	「社会」
6 / 12 (火) ~ 6 / 13 (水)	「第3世界」
6 / 14 (木) ~ 6 / 15 (金)	「教育」
6 / 18 (月) ~ 6 / 19 (火)	「政治」
6 / 20 (水) ~ 6 / 21 (木)	「自然」
6 / 22 (金)	リスニング
6 / 25 (月) ~ 6 / 26 (火)	「環境」
6 / 27 (水) ~ 6 / 28 (木)	「科学」
6 / 29 (金)	リスニング
7 / 2 (月) ~ 7 / 3 (火)	「文化」



11月7日予定の築地市場の豊洲新市場への移転は、延期する。

Moving the Market

What will happen to Tokyo's famous fish market?

For Reading

■ 豊洲新市場建設に伴う周辺住民の不安を解消する。2016年11月20日現在、豊洲新市場の建設は延期されています。豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発の一環として進められています。豊洲地区は、東京の中心部であり、交通の便が良いことから、多くの企業が移転を希望しています。豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発を促進し、豊洲地区の活性化に貢献するものと期待されています。

■ Tsukiji Market is the world's largest fish market. Over 10,000 people visit there every day. When the market was moved to Toyosu in 1995, the train station was used to carry fish, fruits and vegetables. Today the train station is not used, and trucks are used to carry food. However, the fish market was made for trains. It has no parking area for trucks, so it is always very crowded and busy. There are problems with the Tsukiji

the train station is not used, and trucks are used to carry food. However, the fish market was made for trains. It has no parking area for trucks, so it is always very crowded and busy. There are problems with the Tsukiji

Market today. The biggest problem is that the market is old and dangerous. If a big earthquake hits, the buildings will probably fall down. For this reason, Tokyo has been planning to change the market for more than 30 years. However, there is not much land in Tsukiji and construction is difficult, so the plans were not successful. In 2001, Tokyo decided to move the market to Toyosu. It spent 600 billion yen on a new, modern building and planned the move for November 2016.

In August 2016, Yuriko Koike became the governor of Tokyo, and she decided to review the plan. She thought the Toyosu Market could be dangerous and that more studies were needed. After this, the media reported "The building may be dangerous," "The groundwater may not be safe." The Tokyo government did research and found dangerous chemicals in the groundwater. However, a group of experts later said that the groundwater was safe.

This has become a big political problem. Some people think that the market should be moved to Toyosu. They think that all things have risks, so it is impossible to make the market 100% safe. Others believe the market should not be moved to Toyosu. They hear that it is probably safe, but they still have fear. This problem gives us a chance to think about "safety" and "risk".



豊洲新市場の移転延期

豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発の一環として進められています。豊洲地区は、東京の中心部であり、交通の便が良いことから、多くの企業が移転を希望しています。豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発を促進し、豊洲地区の活性化に貢献するものと期待されています。

豊洲新市場の移転延期

豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発の一環として進められています。豊洲地区は、東京の中心部であり、交通の便が良いことから、多くの企業が移転を希望しています。豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発を促進し、豊洲地区の活性化に貢献するものと期待されています。

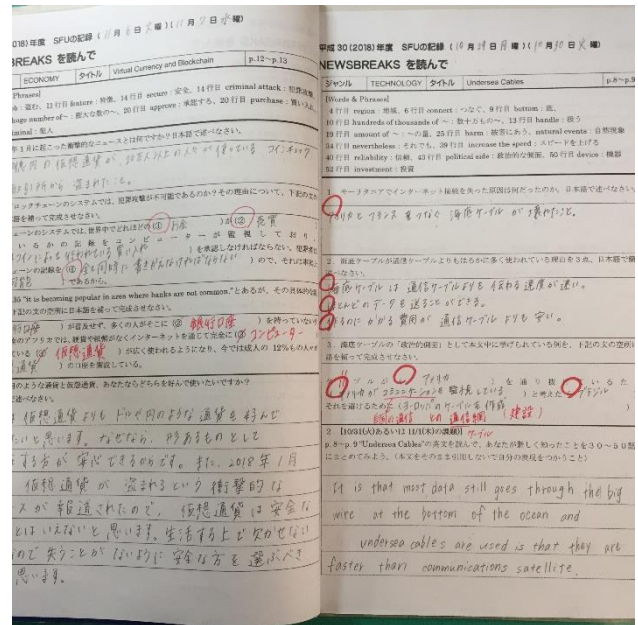
豊洲新市場の移転延期

豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発の一環として進められています。豊洲地区は、東京の中心部であり、交通の便が良いことから、多くの企業が移転を希望しています。豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発を促進し、豊洲地区の活性化に貢献するものと期待されています。

豊洲新市場の移転延期

豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発の一環として進められています。豊洲地区は、東京の中心部であり、交通の便が良いことから、多くの企業が移転を希望しています。豊洲新市場の建設は、豊洲地区の再開発を促進し、豊洲地区の活性化に貢献するものと期待されています。

使用教材：小論文頻出テーマ解説集
『2018 現代を知る plus』（第一学習社）



期	間	内	容
9 /	5 (水) ~ 9 / 20 (木)		「政治・経済」
9 /	21 (金) ~ 9 / 27 (木)		「教育・福祉」
9 /	28 (金) ~ 10 / 5 (金)		「情報・メディア」

『現代を知るplus』を読んで

テーマ	生活・社会	項目	STORY 1	ページ	8 ~ 9
A1	「育児・介護休業法」について、①この法律ができた理由を抜き出そう。②2014年の育児休業取得者の男性は、該当者の何割か。				
A2	少子化が進んでいる一方で、待機児童問題が絡こるはなぜか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。				
B	感想や意見、疑問に思ったことや気づいたことなどを文章でまとめよう。				

『現代を知るplus』を読んで

テーマ	政治・経済	項目	STORY 1	ページ	56 ~ 57
全文を読んだ後、本文の太字の語を一つ選び、それについて自分の考えを書きなさい。					
選んだ語【政治・経済】					
<p>選挙前、日本の政治は政権交代が繰り返されてきた。選挙前は、自民党が政権を握っていた。しかし、選挙後は、野田政権、菅政権、安倍政権と政権交代が繰り返された。これは、日本の政治が成熟していることを示している。また、選挙は国民の意思を反映する重要な手段である。したがって、選挙は日本の政治をより良くするために必要である。</p>					

使用教材：NEWSBREAKS for STANDARD English Learners2018 (エミル出版)

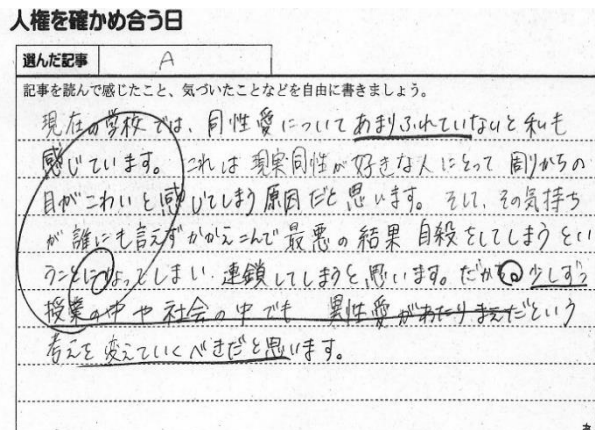
期	間	内	容
10 /	23 (火) ~ 10 / 24 (水)		「イベント」
10 /	25 (木) ~ 10 / 26 (金)		「外交」
10 /	31 (火) ~ 11 / 1 (水)		「第三世界」
11 /	2 (木) ~ 11 / 6 (月)		「文化」

11 / 7 (火) ~ 11 / 8 (水)	「政治」
11 / 9 (木) ~ 11 / 13 (月)	「生活」
11 / 14 (火) ~ 11 / 16 (木)	「経済」
11 / 17 (金) ~ 11 / 20 (月)	「科学技術」
11 / 22 (水) ~ 11 / 24 (金)	「自然」
11 / 27 (月) ~ 11 / 29 (水)	「IT」
11 / 30 (木) ~ 12 / 1 (金)	「社会」
12 / 4 (月) ~ 12 / 5 (火)	「環境」



使用教材：人権を確かめ合う日配布プリント

実施日	5 / 10 (木)	6 / 11 (月)
9 / 11 (火)	10 / 11 (木)	11 / 12 (月)
1 / 11 (金)	2 / 12 (火)	



<評価について>

少なくとも定期考査ごとを目安に（クラスによっては毎週～1テーマごとに）シートを回収し、コメントを付け返却した。

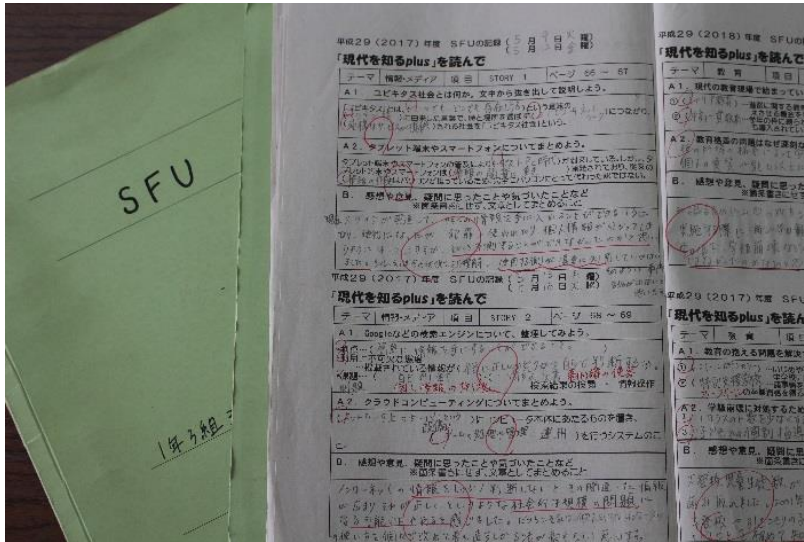
<成果と課題>

毎朝10分間、「読む」→「考える」→「書く」ことを継続させることで、社会問題や時事問題に対して興味や関心をもつ生徒は増えたように感じる。現代社会のどこがどのような問題を生み出しているのか、そしてそれに対するスタンダードな考え方はどのようなものなのか、社会問題は色々な立場によって様々な見方ができる。現実には起こっている問題を自分の問題として捉え、広い視野から多角的に捉えてみる、少なくともその一助にはなったのではないだろうか。また今年度も「現代へのあゆみ」「グローバル国語」「グローバル英語」、そして人権教育部「人権を確かめ合う日」とSFUとが連携し、複合的な機会を設けることによって、多角的な考察を実践し、その手法を学ぶことができた。このことも成果の一つであると言える。

国際社会（国内も含めて）での出来事や問題点について、ベーシックな正しい知識を増やすことは極めて重要である。その意味でも短時間ではあるが、SFUは貴重な機会であると感じる。英文を読むことに関して言えば、やや難易度の高い単語に触れた時に語彙の理解についてのもどかしさを感じながらも、正しい背景知識をもっていることで推測しながら読み進めることができるといった効果も現れ始めている。読後に辞書を用いて語彙の意味を確認することも習慣化できているようだ。

ただ、その中で生徒自身の実感として、「本を読んでいない」「ネットに頼りすぎている」という反省をよく聞くようになった。また、新聞を読まない、読めない生徒の増加は目を覆うばかりである。忙しい高校生活で本を読む時間をどう確保するか、せめて新聞を読むことへの抵抗感を払拭し、どう習慣づけるかが課題である。また、さらにそれを英語で実践できるように高めていかねばならない。今後は新聞を読む生徒や英語で考えをまとめることができる生徒を増加させるよう、新聞や英語の教材の取り入れ方に工夫をしながら、進め方を検討する必要がある。

この時間をきっかけにして、ネットに頼らず新聞やニュース、新書などにより幅広い知識を得る力を育ててほしい。また書いた内容をより深めるため、生徒同士がコミュニケーションを図りながら、お互いに高め合っているような手立ての必要性を感じる。SFUの時間のみならず、他教科、あるいはHRや集会等と連携する機会をもつことも今後は必要かもしれない。



(4) 学校設定科目「グローバル英語」(第1年次)について

<仮 説>

国内外の諸問題や日常生活における問題に関する情報を英語で読んだり聞いたりすることによって、それらに深い関心を持つ。そしてそれらについて英語で他者と意見を交換することで、実際のコミュニケーション活動の中で、英語で自己表現ができるという自信を持つ。さらにそれらの活動を通じて様々なグローバルな問題を自ら積極的に英語で知ろうとし、その問題解決に向けて英語で考えコミュニケーションを図ろうとする力が身に付く。

<目 的>

学校設定科目として週1単位の指導計画の中、日常生活や社会における様々な問題を取り上げ、情報の取得、思考の活性化、論理的な意見の発信を行う。「読む」「聞く」活動、「調べる」活動を通じて情報・知識を手に入れ、「書く」「話す」活動を通じて、異なる考え方に触れた上で、自分の意見を再構築し、それを正しく伝えられる力を身に付けさせる。

<内 容>

英語で積極的にコミュニケーションができる力が身につくように、最初は身近な話題から始めて次第に社会的な問題へ移行した。活動形式としては、ペア活動からグループでのディスカッションへと発展させた。最初は文法的な誤りを恐れず英語で意見を発信することを重視し、次第に他者の考え方に耳を傾け、自分の意見を「再構築」する活動を通じて、より論理的な意見を正確な英語で発信できる力を身に付けさせた。

1学期は身近な話題について、ペアで自分の意見を英語で話したり書いたりする活動から始め、徐々に「主張→理由や具体例による裏付け→結論」から成るパラグラフ構成を考えながら英語を発信するよう指導していった。2学期は「主張→理由や具体例による裏付け→結論」という英文の書き方を継続して学ばせながら、グループディスカッションの導入を行った。まずはテーマに関連した英文を読ませた後、ブレイン・ストーミングの活動を通してマインドマッピングによってより広い視点から自分の意見の理由付けを考え、それをもとにグループで英語による意見の交換を行わせた。またその際にディスカッションにおいて同意したり反論したりするときに必要な定型フレーズの定着を図った。3学期からは意見の理由付けをより説得力のあるものにするための、例示や対照付けなどの手法を学ばせ、その上でより社会的なテーマについてグループディスカッションさせ、定型フレーズ集を見ずに自然にそれを使いこなしながらスムーズに話し合えるよう、さらなるスキルアップを図った。

<実施方法>

1学年、週1時間、昨年度に引き続き1クラスを2つに分割し、20名の少人数講座で授業を行った。隔週で英語科の教員とALTとのティームティーチングの形式で指導に当たっている。もう片方の20名に対しては日本人教員のみで授業を行い、生徒は2週間に一度のペースでティームティーチングの授業を受ける。日本人教員のみで授業でも（以下ソロ授業）、同じ教材を扱い1つのテーマにつき2時間かけて行う。20名の少人数講座の特性を生かし、一人あたりの発言の機会を増やすと同時に、発言しやすい雰囲気を作り出すように促してきた。その中で常に留意させたのは意見についての説得力のある理由付けを行うことと、ディスカッションの中で直前の発言と関連づけられた意見を発することである。また、特に3学期からは、ディスカッションでよく使うフレーズが書かれたカードをグループごとに配布し、生徒が自分の手にしたカードの表現を使いながら自分の意見を論じたり、相手の意見を詳しく聞いたりする活動を取り入れた。この活動を何度も反復させる中で、ディスカッションを進めていくにはどう話せばよいか、どう切り返せばよいかというイメージを生徒にもたせることができた。学年末には上記での述べたカードや表現集などを見ずにその場で与えられたテーマについてディスカッションする力を評価するために、グループディスカッションのテストを実施した。

<授業の実施状況>

月	時間	言語活動	テーマ	学習内容
4	1		ガイダンス	・科目の目標、学習上の留意点、評価方法などについて理解する。

	3	ペアによる意見交換	「朝食はお米とパンのどちらが良いか」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの導入として、朝食にどちらをとっているかについて複数のパートナーに英語でたずね、その理由を聞く活動を行う。意見聴取の結果を英語で報告しあう。 ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・複数のパートナーと意見交換する。 ・賛否を表す表現を用いて、テーマについて自分の意見をその理由とともにライティングでまとめる。
5	4		「電車の中で食事をしても良いか」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの導入として、電車の中で食事をしたことがあるかについて複数のパートナーに英語でたずね、その理由を聞く活動を行う。意見聴取の結果を英語で報告しあう。 ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・複数のパートナーと意見交換を行う。 ・賛否を表す表現を用いて、テーマについて自分の意見をその理由とともにライティングでまとめる。
6	4	ペアによる意見交換	「ゲームをすることは時間の無駄である」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの導入として複数のパートナーに英語で意見徴収を行い、報告しあう。 ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・賛否を表す表現を用いて、テーマについて自分の意見をその理由とともにライティングでまとめる。
		ペアによる意見交換	「歩きスマホは違法にすべきである」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの導入として、歩きスマホをするかパートナーに英語で理由とともにたずねる活動を行う。意見聴取の結果を英語で報告しあう。 ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・賛否を表す表現を用いて、テーマについて自分の意見をその理由とともにライティングでまとめる。
9	2	グループディスカッション	「犬と猫のどちらが飼いたいのか」	<ul style="list-style-type: none"> ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・ディスカッションで使える重要表現を学ぶ。 ・4人ずつのグループで重要表現を使用しながらディスカッションを行う。

	2	グループディスカッション	「弁当と給食のどちらがよいか」	<ul style="list-style-type: none"> ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・ディスカッションで使える重要表現を学ぶ。 ・ブレン・ストーミングの活動を行い、マインドマッピングをすることによって、より広い視野から自分の意見の理由付けを行う。 ・4人ずつのグループで重要表現を使用しながらディスカッションを行う。
10	4	グループディスカッション	「高校生はアルバイトをするべきか」	<ul style="list-style-type: none"> ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・ディスカッションで使える重要表現を学ぶ。 ・ブレン・ストーミングの活動を行い、マインドマッピングをすることによって、より広い視野から自分の意見の理由付けを行う。 ・4人ずつのグループで重要表現を使用しながらディスカッションを行う。
11	4	グループディスカッション	「通学するには制服と私服のどちらが良いか」	<ul style="list-style-type: none"> ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・ブレン・ストーミングの活動を行い、マインドマッピングをすることによって、より広い視野から自分の意見の理由付けを行う。 ・4人ずつのグループで重要表現を使用しながらディスカッションを行う。
12	4	グループディスカッション	「電車のすべての席を優先座席にするべきか」	<ul style="list-style-type: none"> ・関連英文を読み、背景知識を深め、意見の発信に使用できる関連語彙を学ぶ。 ・ブレン・ストーミングの活動を行い、マインドマッピングをすることによって、より広い視野から自分の意見の理由付けを行う。 ・4人ずつのグループで重要表現を使用しながらディスカッションを行う。 ・「主張→理由や具体例による裏付け→結論」から成るパラグラフ構成を考えながら、パラグラフライティングを行う。
1		パラグラフライティング パラグラフライティング講評		<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に行ったパラグラフライティングについての講評をALTより聞き、説得力のある理由の発信の仕方を学ぶ。

1	3	グループディスカッション	「才能と勤勉のどちらが大切か」	<ul style="list-style-type: none"> ・著名人の意見を読み、背景知識を深める。 ・ブレイン・ストーミングの活動を個人で行う。 ・同じ意見の生徒同士が集まって、より説得力の強い理由を共同で考える。 ・ディスカッションでよく使うフレーズが書かれたカードをグループごとに配布。 ・グループで協力し円滑に議論が進むようにする。
2	2	グループディスカッション	「高校生はクラブ活動に時間を使いすぎているか」	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県別のグラフを読む。 ・他国の高校生の意見を知る。 ・ブレイン・ストーミングの活動を個人で行う。 ・同じ意見の生徒同士が集まって、より説得力の強い理由を共同で考える。 ・ディスカッションでよく使うフレーズが書かれたカードをグループごとに配布。 ・グループで協力し円滑に議論が進むようにする。
	2	ディスカッションテスト実施	「ソーシャル・メディアは人々の考え方に悪い影響を与えるか」	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ意見の生徒同士が集まって、より説得力の強い理由を共同で考える。 ・グループで助け合い議論を進める。 ・各グループのメンバーがほぼ等しく発言ができるように協力できているか、を評価する。 ・個々のメンバーが説得力ある意見を言えているか、を評価する。

<使用教材>

1 学期

Global English ③

Is video gaming a waste of time?

Class: _____ No. _____ Name: _____

1. Warm-up Survey: Ask the following questions and fill in the table below.

① Do you play video games?
(If the answer is "Yes")
→ How often? What game do you play?
(If the answer is "No")
→ Why not?

② Do you think video gaming is a waste of time? Why? / Why not?

Partner's name	Question ①	Question ②
1	Yes / No	OK / Not OK
2	Yes / No	OK / Not OK
3	Yes / No	OK / Not OK

2. Pre-reading Fill in the blanks in (1) to (6) by choosing the right words from the box below.

1) Gaming has many good points. Don't _____ it so easily.

2) My parents _____ the time to play games to just one hour a day.

3) Some online games have a(n) _____ of cooperation.

4) I had a long gaming _____ last night. I went to bed at 2 am.

5) You look _____. Were you playing game again last night?

6) Watching movies is too _____. Games are more interactive.

3. Reading

Propose: Video gaming is a waste of time.

For

① These days, it is gaming that many young people spend most of their time on. However, although it may be hard for gamers to accept, they are in fact wasting their time. Let's think about why.

② In the first place, gaming does not stretch our minds or give us something to think deeply about. It is kind of mental junk food. When you do a lot of gaming, instead of developing your mind, you allow your mind to stagnate.

③ Secondly, gaming is not an activity that is over in a few minutes. Many young people cannot limit the time they play. One session can easily last for two or three hours or more. That is a big waste of time!

④ And finally, gaming does not provide any tangible result. Other pastimes such as painting or cooking create nice final products. Unfortunately, from gaming, there is nothing except tired eyes and a stiff neck.

Against

⑤ When gaming is discussed, many non-gamers dismiss it as a waste of time. This is unfair. There are positive aspects to gaming and those must also be considered.

⑥ Firstly, gaming teaches us many useful skills - things such as the ability to react quickly and the ability to think ahead. Developing such skills can be useful in real life, for driving or for operating machines at work or for other practical things.

⑦ Secondly, many games are now online games. People play cooperatively with friends and also make new friends, even in other countries. We can chat while gaming, and that is great communication. Nobody can say that making friends and communicating with them is a waste of time.

⑧ Finally, many young people these days are said to be too passive and uncompetitive. Gaming has an element of competition which can invigorate young people and make them become more competitive in their daily lives.

stretch one's mind
精神的に成長させる
stagnate 停滞する
provide 提供する
tangible 確実な
有形の
pastime 趣味 気遣い
product 成果 生産物
except 一以外
stiff neck
首の筋肉がこること

unfair 不公平な
aspect 側面
react 反応する
practical 実用的な
cooperatively 協力して
passive 受動的な
uncompetitive 競争力のない
element 要素
competition 競争
invigorate 活気づける

2 学期 (つづき)

(WORDS & PHRASES)

• argue over the topic トピックについて論じる	• ultimately 最終的に (=in the end)
• become absorbed in ~ ~に夢中になる	• stock market 株取引、株式市場
• be filled with ~ ~で満たされる	• food, clothing and shelter 衣食住
• necessities 必需品	• medicine 薬
• fall in love with ~ ~と恋に落ちる	• forever 永遠に
• a certain amount of ~ ある一定量の~	• at first sight 一目で

Task A: Which does Diana think is important, love or money? What about John?
Fill in their names in the bracket and write the reasons...

[] thinks love is more important.	[] thinks money is more important.
The reasons:	The reasons:
1	1
2	2

Task B: Share your answers with your partner and then talk about it according to an example below

e.g. Student A is for "money." Student B is for "love"

Student A: () says love is more important than money because _____

but I don't think so because ① _____

Student B: You say ① _____, but I disagree because ② _____

Student A: You say ② _____, I see your point, but ~

☆Useful expressions you have learned

- I see your point, but ~ (あなたの考えはわかりますが、~)
- It is true that ~, but ~ (確かに~ですが...)
- It's not a matter of ~, but... (〜の問題ではなく、...の問題です)

DISCUSSION

Proposal: In order to live a happy life, love is more important than money

① Brainstorming before starting the discussion

Do you agree or disagree with the proposal? Give some reasons to support your opinion



② Make a group of four. Talk about the proposal and share your opinion in a group.
Use at least three from the following expressions.

*Useful expressions for Discussion

A. よく使われる表現—不明確さの指摘

- What you're saying is too abstract. Give me some examples.
(あなたが言っていることは、あまりにも抽象的だ。いくつか例を示してください)
- That's a broad statement. Could you be more specific?
(それは、大まかな発言だね。もっと具体的に言ってくれますか?)
- Your idea is illogical. (あなたの考えは非論理的である)

B. その他の表現

- There are many merits to both, but ~ (両方に多くのメリットはあるが...)
- The most important thing is ~ (もっとも重要なことは~)
- I disagree with you. (あなたに反対だ)
- For example (たとえば)
- I don't think so. (私はそうは思わない)
- Besides. (さらに)
- All we need to live is ~ (生きる上で必要なことは~である)

3 学期

Name() no () Class ()
Warm Up: Ask your partner. Which is more important, talent or hard work? Why?





How long students spend doing club activities in a week (min)



Agree:
 "I feel sad because I barely see my eighth-grade daughter since she joined her junior high school tennis club. Weekends had been our time to hang out in a family, but she's out the door with practices and tournaments even on Sundays. I miss her!"

Jas from India

Disagree:
 "When my kids were younger, I was totally against it, but now I'm not. In my experience, teenagers seem to spend most of their free time staring at a screen, so club activities are definitely good for their health and socialization. Junior high school clubs also keep kids off the streets at a very vulnerable time in their lives."

Rachel from New Zealand

activities?
 activities? Why?
 - time
 - dreams

Task B: Let's try brainstorming.
 Make your opinions stronger by "comparing" and "contrasting" to the other side, and by "cause and effect".



Task C: Let's have a discussion in a group. You must...
 1) give a strong reason with an Explanation or Example
 2) react to the opinion of others. (Use the phrases on the cards)
 3) use English only.

I agree with this proposal. I have two reasons.
 First, we should spend more time to study. This is because I think we have a lot of homeworks to do and it's necessary for us to achieve our dream.
 Second, I think we should spend more time with our family through the left parent's opinion. Though family trip is an example, we should recognize the importance of spending with our family.

Task D: Reflect on your discussion.
 What should you do to improve your speaking skill?

I should have more communication skills. I also think I need listen other's opinions.

1月下旬に10クラス全員に対するアンケートを実施し、以下の13項目に対する1年間の自己評価について「1：まったく思わない、2：あまり思わない、3：まあまあ思う、4：とても思う」の4つの選択肢を選ばせた。

- ① ペアワークに積極的に参加した。
- ② ディスカッションにおいて、他のメンバーと協力して自分の役割を果たそうとした。
- ③ ディスカッションにおいて、資料などをもとに客観的に考え、表現しようとした。
- ④ ディスカッションにおいて、根拠に基づき論理的に意見を述べようとした。
- ⑤ ディスカッションを通じて、多面的な角度から物事を理解し、発言する姿勢が身についた。
- ⑥ 自分に身近な問題や、社会全体の問題に興味・関心を持つようになった。
- ⑦ ALTやJTEの話す英語の内容を、積極的に聞き取ろうとするようになった。
- ⑧ 自分の感情、考えや意見を英語で相手に伝えようとする気持ちが強まった。
- ⑨ 相手の英語を聞き取り、理解しようとする姿勢が身についた。
- ⑩ 英語を使ってコミュニケーションを取ることの大切さ・楽しさ・難しさを知ることができた。
- ⑪ 英語を使って自分を表現し、外国の人とコミュニケーションが取れるようになりたいという気持ちが強くなった。
- ⑫ 将来は海外に留学したり、海外で活躍したりしたいという気持ちが強くなった。
- ⑬ クラスを分割する授業形式だったので、発言することに対する抵抗感が少なかった。

また1年間の活動でもっとも印象的で興味をもった話題と、その理由を答えさせた。

- A「朝食にはお米か、パンか」 B「電車内での飲食の是非」 C「ゲームは時間の無駄か」
 D「歩きスマホは違法にすべきか」 E「弁当か、給食か」 F「生徒のアルバイトの是非」
 G「制服か、普段着か」 H「ネコ派？イヌ派？」 I「愛か、お金か」
 J「電車内優先座席の是非」 K「才能か、努力か」

①～⑬までの結果は以下のとおりである。(数値は%)

	1	2	3	4	3+4
①	0.5	9.7	55.3	34.5	89.8
②	0.8	11.6	59.6	28.0	87.6
③	2.2	21.8	52.3	23.7	76.0
④	0.8	15.4	58.5	25.3	83.8
⑤	3.2	22.9	52.3	21.6	73.9
⑥	4.9	25.1	44.7	25.3	73.1
⑦	0.5	10.0	49.6	39.9	89.5
⑧	1.4	18.4	50.5	29.7	80.3
⑨	1.1	8.6	51.8	38.5	90.3
⑩	0.8	10.8	42.0	46.4	88.4
⑪	2.4	17.3	39.6	40.7	80.3
⑫	12.4	30.5	34.5	22.6	57.1
⑬	3.5	27.2	41.5	27.8	69.3

1年間の活動で最も印象的で興味をもった話題については以下のとおりである。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
5.7	4.1	8.5	4.4	4.6	2.5	4.1	3.3	24.9	14.5	23.5

～分析と考察～

アンケートの結果において回答3と4の合計値が極めて高いのが質問①、②、⑦、⑨、⑩の項目である。今年度1年間身近なトピックについてグループでディスカッションを経験させたが、多くの生徒が活動に積極的に取り組んだことがうかがえる。この科目では隔週でALTとのチームティーチングを行い、JTEも含め授業を全て英語で行った。全て英語で理解しなければいけない状況に最初は戸惑っていた生徒も、数を重ねるごとに、抵抗なくALTとJTEの発言に耳を傾けるようになった。ディスカッションでは自分の伝えたいことを英語でうまく伝えられずもどかしい思いもしながらも、グループのメンバーの様々な意見を聞き、グループで協力して取り組むことができたようである。

一方で回答3と4の合計値が最も低かったのが、質問⑫の項目である。グローバル英語の授業を通じて、多くの生徒が英語でコミュニケーションをとることの大切さや楽しさを実感してはいるが、そのことが必ずしも自分の将来につなげて考えるまでには至っていないことが分かる。コミュニケーションのツールとして英語を学ぶだけでなく、英語を通じて生徒が外国の文化や異なる言語に自ら興味をもてるように、今後さらに授業での取り組みに工夫を凝らしたい。

最も印象的な話題については、Iの項目が最も多かった。Iを選んだ理由の中に「どちらかを決めるのは難しかったけど、いろいろな意見を聞いて楽しかった。」「日本語では話づらいトピックだけど、英語だからあまり恥ずかしがらずに話すことができた。」などの記述があった。ディスカッションに取り組みやすいように、今回授業では身近な話題を中心に挙げたが、今後は本格的なグローバルな問題にも取り組んでいきたい。

<成果と課題>

～成果～

今年度も40人クラスを2分割し、隔週で20人クラスをJTEとALTの2人で受け持つことで、生徒の疑問にすぐに対応でき、生徒が間違いを恐れず前向きに英語を話そうとする雰囲気を作る上で非常に効果があったと思われる

ディスカッションのテーマとしては、日常的な話題をペアで話す活動でスタートし、トピックを次第に社会的な問題へ、そして活動をグループディスカッションに発展させていった。昨年度の課題であった「メンバーの意見を受け入れ、内容を発展させていくことに繋がられないまま終わってしまう」ことの克服を目指した。そのひとつとしてディスカッションをさせる準備段階としてブレイン・ストーミングの活動を行ったことがあげられる。生徒たちはその意見を持った理由やその根拠となる具体例などを紙面で予め準備し、それらを使ってディスカッションの中で賛成、反対を述べた。また理由に強い根拠付けをするための様々な手法（例証、比較、対照付け、因果関係）を指導した。これにより、グループのメンバー全員がより積極的に意見を述べ、ディスカッションがより長く継続するようになった。

しかしその反面、グループによっては発言が予め紙面で準備されたものに限られたり、前の生徒の発言と上手く関連づけられていなかったりすることが散見された。そこで3学期にはその面を克服するために、ディスカッションの中で前に発言された意見にいかに関連づけて賛成したり反対したりする意見を即興で言えるか、ということを中心として指導をした。昨年に引き続きディスカッションで使用する重要表現のひとつひとつを載せたカードを各グループに配布し、自分の手持ちのカードがいつ使えるかを考えながらディスカッションに参加するという方法をとったが、カードゲーム感覚の楽しさも手伝って、カードを出せる機をうかがいながら上手に反応して意見を即興で言える生徒が増えた。

集大成として学年末にはグループディスカッションのテストを行った。5人ずつのグループで7分の制限時間を設けて、その間にメンバーが公平に発言の機会を持てるようグループとして協力しながら、個々のメンバーがいかに積極的に説得力のある意見を言えたかを評価した。生徒たちは普段の授業ではカードに載せてある重要表現を自由に使いこなしてディスカッションを進める様子が多く見られ、英語で発言することに自信を持ってくれたようである。

～課題～

昨年度に引き続き、ディスカッションのトピックについてのモデルとなる意見文を読ませ、自分自身の意見に置きかえて書かせたり発言させたりする練習をした。背景知識やそのトピックを論じるのに必要な語彙を与えるのがその目的であるが、生徒の中にはその意見文での論じ方を模倣したりするものもいてマイナスの面があることも否めなかった。どのようなモデル文を与えて語彙、背景知識を持たせるかは今後の課題となる。ときにはモデル文を全く与えずに必要となる語彙やグラフなどの統計資料を自分で調べさせたりして、最初の段階から自由に意見をまとめさせるような指導も必要であろう。

また生徒が自分の考えをまとめる過程で、紙面上でブレン・ストーミングすることを推奨し指導したが、ディスカッションの中で紙面に書いたことに頼りすぎて、書いてあることが発言し終われば発言しなくなる生徒も中には見られた。前の発言と関連づけられた意見をより即興で発言させるためには、今後指導方法に変化を持たせなければいけないだろう。

今後学年が上がるに応じて「コミュニケーション英語」などで取り上げられた問題や、よりグローバルな内容に関して賛否を問うようなディスカッションも、生徒の国内外への関心をより高めるに効果があると思われる。社会科や理科などともタイアップしながら、それらについて一層深い背景知識をつけることにより、説得力のある意見を発言させていきたい。

(5) 学校設定科目「グローバル英語」(第2年次)について

<仮説>

「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能をバランスよく使った言語活動を増やすことにより、自信を持って実際のコミュニケーション活動を行うことができるのではないか。国内外、日常生活における様々な問題に関する情報を英語で知り、理解した上で、積極的に自分の意見を英語で伝え、また他者の意見を共感的に聞く力が身につくと考える。

<目的>

国内外、日常生活等における様々な問題を取り上げ、情報の取得、思考の活性化、意見の発信を行う。「読む」「聞く」活動、「調べる」活動を通じて情報・知識を手に入れ、「書く」「話す」活動へとつなげていく。ペア、グループ、クラス内で意見を共有し、異なる考え方に触れながら、自分の意見を再構築し、それを正しくまた効果的に伝えられる表現力を身につける。

<内容>

1学期は、第1学年で行ったグループディスカッションを復習しながら、ディベート活動へと発展させていった。「24時間営業の是非」や「救急車の利用の有料化の是非」といったテーマをはじめとして、6回ディベートを実施した。併せて、相手の言ったことのメモを取り、要約できる力を測るパフォーマンステストも実施した。2学期は、プレゼンテーション活動に取り組んだ。クラス共通の4つのトピックについて、それぞれが原稿を作成し、クラス全員の前で発表し、相互評価をした。3学期はグループプレゼンテーションとして、グループで独自のスキットを作成し、発表した。

<実施方法>

週1時間の学校設定科目として、英語科教員とALTとのチームティーチングの形式で指導に当たっている。1学期のディベートでは各トピックに1時間、場合によっては2時間かけて、パフォーマンステストを含めて6つのトピックで実施した。各時間を通して、ディベートでよく使われる表現や必要な語彙、また、立証、反論の方法などを学ばせた。また、肯定側・否定側の双方の視点から立論の準備ができるようにさせた。2学期のプレゼンテーションでは、1時間目に効果的なプレゼンテーションをするための心構えを学ばせ、その後は1つのテーマに対して2時間（1時間は準備、もう1時間は発表）を使ってプレゼンテーションの準備をさせた。4人1グループにクラスを分け、4つのテーマから各メンバーが1つを選び、クラス全員の前で発表した。3学期のグループプレゼンテーションでは、モデルスキットを用いてまず練習してから、クラスを3～4人のグループに分け、自由な内容で協力して台本を考えた。準備、リハーサルで3時間、クラス発表に2時間かけて行った。

<授業の実施状況>

月	時間	言語活動	テーマ	学習内容
4	1	グループディスカッション①	カジュアルなテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマで形式張らずに英語で話し合う。 ・“What do you think about it?” “What do you mean?”など意見を促す言葉をかけあいながら、円滑に議論が進むようにする。 ・相手の話をよく聞き、相手が伝えようとする内容の理解に努める。
5	1	グループディスカッション②	「東京五輪ボランティア」	<ul style="list-style-type: none"> ・関連資料を読み、背景知識を得る。 ・「ボランティアに参加したいかどうか」を、理由や具体例を明確にして話し合う。 ・意見を促す言葉をかけながら、円滑に議論が進むようにする。 ・相手の話をよく聞き、相手が伝えようとする内容の理解に努める。
	1	ペアディベート	ディベート① 「喫煙は法律で禁止されるべきだ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの方法とルールを学ぶ。 ・ディベートの形式に慣れるため、紙上でディベートを行う。
	1		ディベート② 「美を競うミスコンは禁止すべきだ」	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成／反対の両方の立場に立つ機会を設け、相手の意見に対する反駁を紙上で行う。 ・根拠を持った複数の意見を述べて、それぞれに対する反駁に努める。
	1	簡易ディベート (6～7人でグループを形成し、ピンポンディベートを行う)	ディベート③	<ul style="list-style-type: none"> ・かみ合った議論になるよう、相手の意見によく耳を傾ける。 ・相手の意見を要約した上で、筋の通った反駁をする。 ・良い聞き手であることがコミュニケーションを深める基盤となることを理解する。

6	1	チームディベート (5人グループを形成し、チーム対抗でフォーマル形式のディベートを行う)	ディベート④ 「美容整形はいいことだ」	<ul style="list-style-type: none"> ・主張、反駁、総括の仕方や根拠の提示方法を学び、説得力のある意見を述べるべきことを確認する。 ・進行形式(作戦→立論→作戦→反駁→作戦→ディフェンス→作戦→総括)に沿ってディベートを行う。 ・作戦の時間にチームで協力して、対抗意見の構築に努める。
	1		ディベート⑤ 「24時間営業は必要だ」	<ul style="list-style-type: none"> ・進行形式に従ってディベートを行う。 ・作戦の時間にチームで協力して、対抗意見の構築に努める。
	2		ディベート⑥ 「救急車の利用を有料にすべきだ」 (パフォーマンステスト)	<p>パフォーマンステストとしてディベートを評価する。2時間を費やして、準備とディベートを行う。</p> <p><1時間目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで、テーマに関する情報をインターネットや新聞記事等を活用して収集し、立論を構築する。 ・賛成/反対どちらの立場にも立てるよう両方の立論を準備する。 ・相手の主張を予想した反駁を準備する。 ・かみ合った議論になるよう対戦ルールを確認する。
				<p><2時間目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のタイムテーブルに従い、ディベートを行う。 <p>準備 2分 立論 90秒×2 (肯定側1人・否定側1人) 作戦 5分 反駁 90秒×4 (肯定側2人・否定側2人) 作戦 5分 ディフェンス 90秒×2 (肯定側1人・否定側1人) 作戦 5分 総括 90秒×2 (肯定側1人・否定側1人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみ合った議論になるように、対戦中および作戦中にフローシートを活用してメモをとる。 ・グループで協力して対戦をする。 ・JTEとALTが審判として各対戦を観察し、評価する。
9	1	個人プレゼンテーション	プレゼンテーションの方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD『気づきから育てるプレゼン・スキル(ジャパンライム)』を視聴する。 ・DVDを視聴し、視聴ノートの記入や意見交換を通して、「効果的なプレゼンテーションと

10	2		プレゼンテーション① 「私のお気に入り」	は何か」を考える。 ＜各テーマ1時間目＞ ・ALTとJTEがテーマに沿ったモデルプレゼンテーションを行う。(5分) ・200語程度の原稿を作成する。(20分)
	2		プレゼンテーション② 「私の経験／子ども時代の思い出」	・Peer-editingとして、グループ(4人)内で原稿を回し読みして校正する。(10分) ・原稿の音読練習をし、プレゼンテーション時のキーワードに下線を引く。(10分) ・次回プレゼンテーションの発表者(グループから1名ずつ)を決める。
	2		プレゼンテーション③ 「日本の若者文化／伝統的文化／ユニークな文化」	＜各テーマ2時間目＞ ・練習として、グループでミニプレゼンテーションを行う。 ・発表者によるプレゼンテーションを行う。 ・ALT、JTE、生徒が、評価シートを用いてプレゼンテーションを評価する。
11	2		プレゼンテーション④ 「私は学校のルール・慣習をこう変えたい」	・発表者は聞き手を意識して難解な表現を避け、伝わり易い表現を用いる。また、身近な例を挙げるなどし、的確に伝わる工夫をする。 ・発表者は原稿から目を離し、聞き手に語りかける。また、広がりのある質問を聞き手に投げかけたり資料を提示したりして、聞き手の興味
12				を引くよう工夫をする。 ・聞き手は、共感的な傾聴がコミュニケーションを深める基盤となることを理解する。
1	1	グループスキット (4人のグループでスキットを創作し、演じる)	スキットの目的と手法を学ぶ。	・モデルスキットとして“The Princess and the Frog”の一場面をALTとJTEが演じる。生徒はその演技を観察して、感情を込めて言葉を発することや動作を交えて表現することの重要性を理解する。 ・“The Princess and the Frog”の一場面をペアで演じる。 ・クラスメートの前で発表する。
	2		スキット創作	・条件に沿って、プロット作成、配役決定、台本作成に取り組む。 ・条件 ①テーマ「未知との遭遇」 「未知」は必ずしも「宇宙人」である必要はない ②上演時間4分 ③台本原稿250語以上 ④伝わりやすい平易な表現を用いる。 ⑤効果的な小道具を工夫する。
2				

1	練習	<ul style="list-style-type: none"> ・スキット上演には、「台詞の棒読み」ではなく、「役になりきり、演じる」ことが重要であることを伝える。 ・演技を伴った練習を行う。 ・別の班と互いに発表し合い、提案やアドバイスを出し合う。
2	発表（パフォーマンステスト）	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT、JTE、生徒が、評価シートを用いて評価する。

<成果と課題>

～成果～

1学期の「グローバル英語」では、ディベートに取り組んだ。まずディベートの形式に慣れるため、「喫煙は法律で禁止されるべきだ」「美を競うミスコンは禁止すべきだ」という2つのテーマについて、紙上でペアディベートを行った。ディベートを紙上で行うことで議論の流れを目で追うことができ、今回初めて挑戦する反駁の方法を理解する一助となったように思う。次は口頭でのディベートに慣れるため、6～7人でグループを形成し、

An Example of How to Team Debate TOPIC: *English should be the global language.*

Affirmative Constructive Speech (A1)		Negative Counterattack (N2/N3)	Affirmative's Defense (A4)	Affirmative's Summary (A5)
[Reason 1] If everyone speaks English, we can communicate easily with each other.	[Evidence 1] In fact, 1.5 billion people speak English in 105 countries. [Evidence 2] English is the official language in 83 countries.	1. We will lose our diversity and a part of who we are. [Evidence/Question] For example, many children of immigrants cannot speak in their native language because they are too focused on learning English. For instance, my Filipino friend Joel can speak only English but not Filipino. [Add question if necessary.]	1. That's not always true. Because if we have pride in our country's unique history and culture, then we will learn the native language. Also, it is the parent's responsibility to teach their children their native language. For example, thanks to my parents, I can speak both Japanese and English.	Our argument is stronger than theirs. Because they didn't give enough evidence. Therefore, we believe that English should be the global language.
[Reason 2]	[Evidence 1] [Evidence 2]	2. [Evidence/Question] [Add question if necessary.]	2.	
Negative Constructive Speech (N1)		Affirmative's Counterattack (A2/A3)	Negative's Defense (N4)	Negative's Summary (N5)
[Reason 1] Language is a part of our identity.	[Evidence 1] Language is a part of one's culture. Taking away one's native language is essentially telling them, "You are different and we don't like it. Be like us." [Evidence 2]	1. There are many bilingual people who still have their own cultural identity. [Evidence/Question] According to Seung Man Park, an English professor at Dankook University, parents who encourage their children to use their native language and to be involved in their culture, improve their sense of identity. [Add question if necessary.]	1. English is too difficult to learn. In English there are too many rules, irregularities, and exceptions to the language.	Our argument is stronger than theirs because they didn't talk about the other 5 billion people who does not speak English. Therefore, we believe that English should not be a global language.
[Reason 2]	[Evidence 1] [Evidence 2]	2. [Evidence/Question] [Add question if necessary.]	2.	

ピンポンディベートを行った。生徒たちは相手の意見を聞いて直ちに筋の通った反駁をすることに苦労していたが、1年次にディスカッションに取り組んだ経験から、相手の意見によく耳を傾けて自分の意見を述べるということができていた。最後に、「美容整形はいいことだ」「24時間営業は必要だ」という2つのテーマでチームディベートに取り組んだ。初めはディベートの進行形式に戸惑っていたが、実践を通してチームで協力しながら形式に沿って取り組むことができていた。パフォーマンステストは「救急車の利用を有料にすべきだ」というテーマで行い、前1時間を準備の時間とした。テスト当日まで自分のグループが賛成・反対のどちらの立場になるか分からないため、両方の意見を準備する必要があったが、それまでに各テーマについて賛成・反対の両立場でディベートしていたため、相手がどのように反駁してくるかを推測しながら情報を収集し、立論を準備することができていた。テストでは、JTEとALTがジャッジとなり勝敗を判定したため、生徒たちはお互いに競い合いながら、楽しんで取り組むことができていたように思う。学期末の振り返りでは、多くの生徒が、チームで協力して相手の反駁を予想して、相手を言い負かすことに面白さを感じたと述べていた。

2学期には個人でのプレゼンテーションを行った。「私のお気に入り」「私の経験／子ども時代の思い出」「日本の若者文化／伝統的文化／ユニークな文化」「私は学校のルール・慣習をこう変えたい」という4つのテーマについて200語程度のプレゼンテーション原稿を作成し、その内1つのテーマについてクラス全員の前でプレゼンテーションを行った。生徒たちは、ただ一方的に話すのではなく、相手に興味をもってもらおうということを意識して、聞き手に質問を投げかけて巻き込んだり、資料を提示したりして、それぞれ工夫することができていた。聞き手も共感を示しながらプレゼンテーションを聞くことができていた。

Global English ⑤の Presentation
Theme 3
"Japanese Traditional/Youth/Unique Culture"

GETTING READY
 You will talk about a Japanese traditional/youth/unique culture. Think about what you are going to talk about.

BEFORE WRITING [5 min.]
 Write down your idea.

LET'S WRITE! Write your manuscript in the box on the right side. [15 min.]

PEER-EDITING [3 min.]
 Read a writing of your group members and check its wrong parts if you find any. If you find any mistakes, write the signs which indicate the kinds of mistake. Use a pencil, not ink.

G	→ Grammar (文法/語法/接続)	S/P	→ Singular/Plural (単数/複数)
T	→ Tense (時態)	RW	→ Try or writing (原稿本用)
S	→ Spelling		

READING PRACTICE
 1) Practice reading your writing alone. [2 min.]
 2) Read your writing in group, and receive as many questions as possible from your group members so that they will be the keys to your presentation. [10 min.]
 Take notes on the advice of your group members.

CHOICE OF PRESENTER
 Decide who will make the "Japanese Culture..." presentation (take the performance test) next week.

For Draft
 (Your presentation should be between 120 and 150 seconds.)

CHECK YOURSELF
 1. Does your writing tell your topic clearly?
 2. Does it use simple and clear expressions?
 3. Does it tell the reason why you like the topic / find it etc.?
 4. Does it contain an episode or example which helps listeners understand clearly?
 5. Is the ending effective?
 6. Still your writing attract listeners' interest?

3学期にはグループでの「スキット」を行った。"The Princess and the frog"（「王女とカエル」）を練習用スキットに用いた後、3人から4人のグループに分かれ、スキットを創作させた。1学期のディベート、2学期のプレゼンテーションでは、与えられたテーマについて自分の意見を論理的に述べなければならなかったが、一方スキットは自由度が高く、グループで楽しみながら取り組んでいた。発表では、ただ台詞を読むだけでなく、身振り手振りを交えて感情を込めて演じることができていた。聞き手にも積極的に楽しんでいる姿勢が見られ、英語を用いるコミュニケーションの醍醐味を味わうことができていた。

Global English **TRY A SKIT! 1**

Schedule

- 1st lesson Introduction
- 2nd lesson Making your original skit 1 * You have to hand in your script.
- 3rd lesson Practice of acting / Completion of the skit
- 4th lesson Performance test * You have to hand in your complete script.
- 5th lesson Performance test * You have to hand in your complete script.
- 6th lesson Performance test * You have to hand in your complete script.

* You will NOT have the GE exam at the end-term exam, so your grade will depend mostly on your attendance, skit script, and performance test!

1. What is a Skit?
 A skit is a short performance in which the actors play characters of a story.
 ⇒ The goal of this activity is to tell/show the audience what you think is moving, interesting, funny, important, etc.

2. We Are Going to Play a Skit!
 * You work in groups of 4 or 3 people.
 * Your skit script should be written in easy English so that the audience can understand your skit easily.
 * Enjoy your performance, speaking the lines with emotions. DO NOT just read.
 * Through the acting of a skit, feel what communication should be.

3. Let's Try a Skit in Pairs!

4. Who's your Group Members?

5. Decide your Title

Conditional Theme is "ENCOUNTER WITH THE UNKNOWN"
 * It does not mean that your skit should be about space creatures.

12-step guide to rehearsing for a great performance!

1. Look at what the teachers wrote when they checked your skit. If you need to, make some changes to the skit.
2. Read through the skit one time together with your group. Each person should read his or her own part.
3. Practice only your own part for 2-3 minutes.
4. Read through the skit with your group again.
5. Talk with your group about the actions you will do when you are performing.
6. Practice the skit one time together with the actions. When you practice with the actions, you might find out that you want to change something. It is okay to change the skit or the actions to make your performance better.
7. Practice only your own part.
8. Practice the whole skit together with the actions.
9. Talk with your group about any props or costumes you need for your performance.
10. Practice the skit together with the actions.
11. Show one other group your skit. Listen to their ideas about how to make your skit better.
12. Practice your skit together with the actions again.

チームディベート



準備活動



パフォーマンステスト

グループスキット



～課題～

研究課題を英語で発表する未来創造会議を念頭に、自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えるという力を伸ばすことを目標とした。2年当初は、1年次のディスカッションの経験から、短文で相手に言い返すということはできていたが、説得力を持たせて自分の意見を伝えるという力は不十分であった。しかし、ディベート、プレゼンテーション、スキットという活動を通して、聞き手を意識し、英語を使って自分の意見を理解させるという力がついたように思う。そのような過程で、生徒は英語によるコミュニケーションの真の楽しさを感じることができていた。

後述のアンケート結果にもあるように、多くの生徒が1年次と比べて英語でコミュニケーションをとることの大切さ・難しさを感じると同時に、コミュニケーションを取ったりできるようになりたいという気持ちが強くなったと感じている。そしてコミュニケーションをとるうえで大切なことは聞き手を意識することだと気づくことができた。来年度の未来創造会議に向けて、英語を話す力だけではなく、相手に理解してもらうために必要な力を主体的に身につけられるような指導を次年度も続けていきたい。

<アンケート結果分析とその考察>

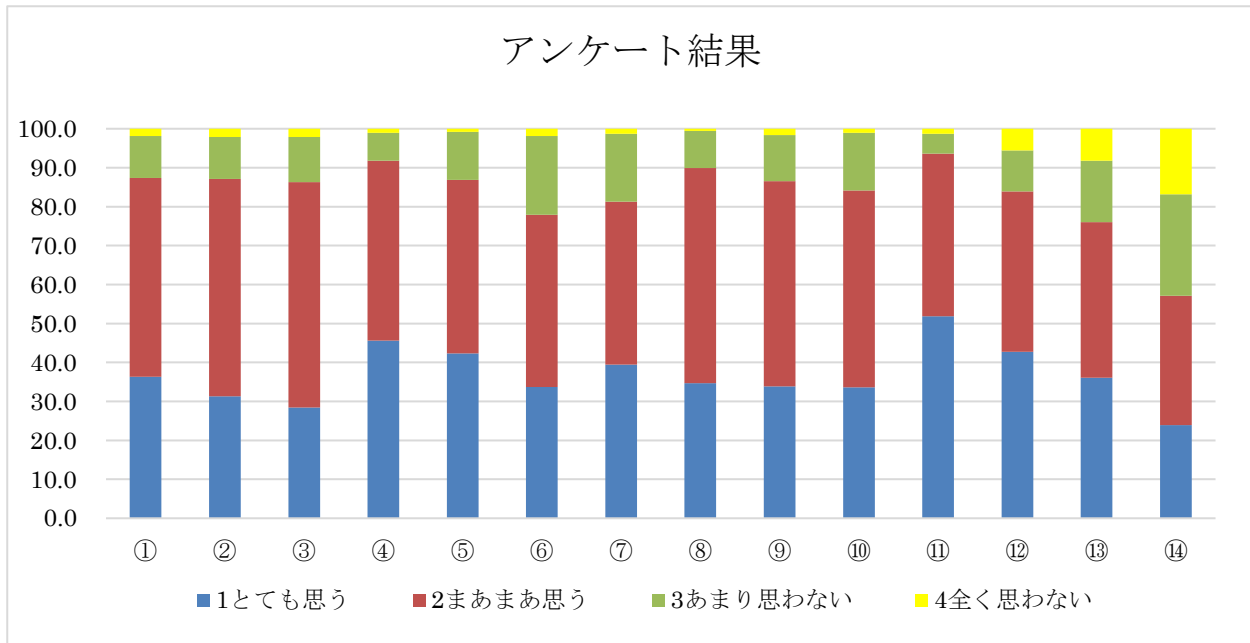
～実施方法と結果～

1年間のグローバル英語の様々な活動を振り返り、2月中旬に学年生徒全員を対象にアンケートを実施した。以下の14項目に関して「1：とても思う、2：まあまあ思う、3：あまり思わない、4：全く思わない」の4つの選択肢で、一年間の自己評価をさせた。

- ① 「ディベート」では、積極的に英語で話そうと努めた。
- ② 「ディベート」では、根拠をもって論理的に自分の意見を述べようと努めた。
- ③ 「ディベート」では、相手の意見に対する賛成・反対の意見を、論理的に根拠をもって述べようと努めた。
- ④ 「ディベート」では、グループの一員として、他のメンバーと協力して自分の役割を果たそうと努めた。
- ⑤ 「プレゼンテーション」では、聞き手が理解・共感・興味を示してくれるように、原稿内容の工夫に努めた。
- ⑥ 「プレゼンテーション」では、聞き手が理解・共感・興味を示してくれるように、原稿をただ「読む」のではなく、伝えたいことを「話す」ように努めた。
- ⑦ 「プレゼンテーション」では、聞き手が理解・共感・興味を示してくれるように、発表の仕方を工夫しようとした。
- ⑧ 「スキット」では、聞き手が理解・共感・興味を示してくれるように、わかりやすいストーリーの構成に努めた。
- ⑨ 「スキット」では、聞き手が理解・共感・興味を示してくれるように、台詞の英語表現を工夫しようとした。
- ⑩ 「スキット」では、聞き手が理解・共感・興味を示してくれるように、ただ台詞を「言う」のだけでなく、台詞に抑揚・表情・動きを加えようとした。
- ⑪ 「スキット」では、グループの一員として、他のメンバーと協力して自分の役割を果たそうとした。
- ⑫ 1年次と比べて、英語でコミュニケーションをとることの大切さ・楽しさ・難しさを感じるようになっている。

- ⑬ 1年次と比べて、英語で自分の思いを表現したり、外国の人とコミュニケーションを取ったりできるようになりたいという気持ちが強くなった。
- ⑭ 1年次と比べて、将来は海外に留学したり、海外で活躍したりしたいという気持ちが強くなった。

①～⑭までの結果は以下の表の通りである。(数値は%)



～分析と考察～

総じて平均すると、回答1または2の肯定的な意見が8割程度占めた。特に④と⑪の項目においては9割以上の生徒が肯定的な回答をしており、仲間と協働することを楽しさを見出した様子が窺える。一方で⑥の項目では2割を超える生徒が否定的な回答をしている。プレゼンテーションでは聞き手を意識した語彙の選択から内容の論理的な展開に至るまで、自由度の高いテーマでありながらもアカデミックな技術を要したこともあり、楽しさ以上に難しさを感じた生徒が比較的多かった。また、先に述べた評価が高かった項目内容を踏まえると、プレゼンテーションではグループではなく個人での作業がメインとなるために反比例的な結果が出たとも解釈できる。

各学期での取り組みを週に1度の授業内だけで仕上げることは難しく、本やインターネットによるリサーチ、発表原稿や台詞の読み合わせ、小道具作成など、各学期でのパフォーマンステストにあわせて、生徒たちは休み時間や放課後などの時間を利用して作業に取り組んでいた。SNSを通じて打ち合わせをしたという話もよく耳にした。グループ単位での評価点を設けたことで一層真剣みが増し、メンバー間での切磋琢磨による相乗効果もあったことが、こうした授業に対する前向きな姿勢に繋がったと思われる。加えて、自分の意見や役割を多くのオーディエンスの前で披露する機会を重ねていくことで、聞き手を意識する必要性を感じ取り、徐々に下書きにはないアドリブを入れてみたりユーモアを交えたりするなどといった余裕をみせる生徒が確実に増加していった。

⑬⑭の回答については、他より低い数値が出ているが、経年比較してみると、ここ数年ほぼ同じ数値が続いていることが分かった。授業という枠を超えての実践的な英語活用であったり、高校卒業後のキャリアを見据えた指導などといった別の視点を加えていくことが今後の課題の一つになるだろう。

(6) 学校設定科目「グローバル英語」(第3年次)について

<仮説>

「書く」以外にも「読む」「聞く」「話す」技能を使う活動を取り入れることで、アカデミックライティングの手法を効果的に学習できるのではないか。国内外、日常生活における様々な問題に関する情報を英語で知り、理解した上で、自分の意見を正確な英語で効果的に表現する力が身につくと考える。

<目的>

国内外、日常生活等における様々な問題を取り上げ、情報の取得、思考の活性化、意見の発信を行う。「読む」「聞く」活動を通じて情報・知識を手に入れ、「書く」活動へとつなげていく。ペアやクラス内で意見を共有し、異なる考え方に触れながら、自分の意見を再構築し、論理的で説得力のある英文を書く力を身につける。

<内容>

1学期は、アカデミックライティングの手法について、説明文・物語文形式の2種類の英文の書き方を学習した。2学期は、様々なジャンルの長文読解演習および様々な問題形式のリスニング演習を実施した。

<実施方法>

週1時間の学校設定科目として、英語科教員とALTとのティームティーチングの形式で指導に当たっている。1学期は各セクションで2～3時間費やし、アカデミックライティングの中でも2種類の英文の書き方について、「コミュニケーション英語Ⅲ」の教科書であるELEMENTを使用し、学習を進める。1学期に2回、自由英作文を書き、提出させ、評価する。その際、必ず「セルフチェックシート」に基づき、自己校正を行い、またピアエディティング(他者校正)も行う。

2学期は実際に様々なメディアに寄稿されている文章を使用し、3年間で学習してきたことを実生活における英文解釈につなげる。様々な分野についての文章を英語で読み、英語の表現と日本語の表現との違いに気づき、より英語らしい文章を作成するための知識とする。

(7)「現代へのあゆみ」について

<仮説>

生徒自らが現代社会の諸問題を課題研究し、更にそれを発展的に研究する科目を設定することで、情報活用力、表現力、対話力、企画力、協働力を育成する。

<目標>

「世界史A」「日本史A」(2単位)と「社会と情報」(1単位)を代替する。身近にある事象や諸資料などが、どのような地理的条件や歴史的条件下に成立して現在あるのかを幅広く学習する。またその過程を通じて、地域や国際社会の諸問題を多角的に考察し、その解決を図る態度を育成する。

<内容>

[1] 年間計画

1学期は、主として世界史的なものの見方を養い、グローバル社会におけるモノや文化の伝播や世界の人々の交流について学習した。夏期課題では、フィールドワークの一環として外国人・日本人への奈良紹介の取組である「奈良おもてなしプレゼン」の取組を行った。2学期は、3学期に向けて「奈良の魅力発展プロポーザル」のポスター作成・発表、日本史の近代史に該当する領域を学習した。夏期課題の取組を受けて県内各地の特徴や課題がどこに由来するのかを探究し、明治以後の日本の近代化と奈良県を比較対照することにより、現在にいたる奈良県の姿を学習した。3学期は、「奈良の魅力

発展プロポーザル」の取組を行った。

〔2〕授業の実施方法

生徒が主体的に課題を設定し、その解決に向けての方策を探究することがこの授業の大きな目標である。その前提として、まず世界や日本でどのような事が課題となっているかを認識することが必要となる。また、その課題を理解するための基礎知識も必要となってくる。授業では、必要な情報や知識を得るというインプットの学習活動と、得た知識を分析し、解決に向けての方策を考察、表現するというアウトプットの学習活動が展開される。この2つは別々に設定されるものではなく、授業の中で生徒たちの理解度を確認しながらも、意見を述べさせるというように相互補完的に展開されるものである。

授業は担当者が単元を設定し、その目標を明示し共通プリントを作成し、教科書や資料を参考として提示する形で行った。今までの学習した知識を確認しながら、ペアワークやグループワークを通じて、意見を求めながら進めていった。

授業では、なるべく講義形式にならないよう工夫し、教科書や資料から自分たちの力で、原因を突き止めるための推察力や疑問力、調査能力、討議能力の育成を図った。また、課題研究では、テーマ設定までの企画力、情報収集・活用力、プレゼンテーション能力などの向上を目標とした。

〔3〕単元ごとの取組

以下、年間を通じての取組のテーマは以下の通りである。

- ① “今” を歴史から探る
- ② 世界の宗教を知ろう・・・・・・・・以上1学期
- ③ 「奈良おもてなしプレゼン」の取組と発表
- ④ 「奈良の魅力発展プロポーザル」のポスター作成と発表
- ⑤ 地域から歴史を見る
- ⑥ 早稲田大学真辺先生による講演・・・・以上2学期
- ⑦ 「奈良の魅力発展プロポーザル」のパワーポイント作成と発表
- ⑧ S G H発表会の取組・・・・・・・・以上3学期

以下にそれぞれの取組の概要と生徒の反応、成果と課題をそれぞれ述べる。

① “今” を歴史から探る

1年間の授業の導入として、「世界の地域の自然と人々」をテーマに、探究する方法とはどのようなものであるかを学習した。

第1回目は、世界の地域区分を確認するとともに、世界のある地域に住む16才の休日を日記にするというワークを通して、民族と人種の違いや、地域による人々の生活文化の違いを考察した。(プリント参照)。その際、生徒の気付きや発見を大切にするとともに、お互いの考えを深めるために、ペアワークやグループでの活動を取り入れた。

第2回目は、教科書を参考に、実際に民族と人種の違いや、地域による人々の生活文化を学び、第1回目の自分の日記と比べて正しい認識と誤った認識を振り返った。現代においても地域において様々な暮らしがあることを理解させ、それが何に起因するものかを考察した。

2. 1つの地域を選び、16歳の休日を絵日記にします。 Asyumi 2018_01

日記のポイント

- ・主人公は16歳
- ・国の設定は自由。(地域の中から設定する。日本以外の国にする。)
- ・とあるシーズン → 何月何日か設定する。ただし、休日とする。
- ・「食」に関わることを必ず書く。
- ・その日の活動を書く。

絵

4月2/日 天気 晴れ

食: 飯に

今日は私の誕生日なので、母が、大好物のクレープと、
モンパルを作ってくれました。父からは、とてもきれいな
スカラベのお守りを貰いました。

その後、ナイル川を渡って、毎年恒例のピラミッドを
見に行きました。広い砂漠の中には、雄々と建っ
て、その姿は、正に王の眠る場所にふさわしい威容を
見せていて、何年後でも感動を覚えます。とてもおもしろいな
ので、次の誕生日が待ち遠しくなりました。

2. 自分の日記と比べてみて……

【正しい認識】

【誤った認識】

【よく分からないこと】

※確認事項

☆「民族」と「人種」の違い (教科書が参照)

「民族」	「人種」	「言語」

☆「一神教」と「多神教」

「一神教」	「多神教」

2018年 月 日 1年 組 番 名前

(ともに右半分のみ抜粋)

〈生徒の反応〉および〈※ 成果と課題〉

- ・絵日記を書くことによって、自分があまり知らない外国の地域について調べるきっかけとなり、興味を持つことができた。
- ・各地域に対する大まかなイメージは持っていたが、実際自分が行ったということで日記を書くのは細かく知らなくて難しかった。他の人の発表を聞いて、それぞれの地域の生活文化に対するイメージがわかり面白かった。
- ・その地域の高校生になりきって日記を書くことにより、気候によって様々な生活様式があり、世界の地理に興味を持つとともに、どのようにその生活様式になったのかという歴史にも興味を持つことができた。

※歴史を学習することは、教科書にある出来事をとらえることだけではなく、地形や気候などから生み出された様々な景観に気づき、自然環境が私たちの生活にも大きな影響を与えていることなどに着目できたと思う。現代においても、地域において様々な暮らしがあることを理解させ、それが民族と人種の違いや、地域による人々の生活文化など様々なものと複雑に関係していることが印象付けられたと思う。1年間の授業の導入として各地域を取り上げることができたが、時間があればさらに深く探求できるのではないかと考える。

②世界の宗教を知ろう

世界には多くの民族が生活し、その生活文化の基本は宗教である。正しい宗教教育、宗教理解をすることは異文化共生をしていく上で欠かすことのできないものである。近年、イスラーム国 (IS) やイスラーム過激派の動きが大きく話題になっているが、イスラームの正しい理解が大切である。このような観点から宗教学習の最初にイスラームを選んだ。さらに、イスラームから遡り、ユダヤ教とキリスト教を学習し、一神教の概念を学んだ。一方、宗教に寛容な日本人の宗教観はどのようなものであるかを学ぶことにより、日本人と外国人との考え方の根本的な相違について考察した。

学習方法は、講義形式の学習ではなく、生徒の意欲・関心を高める形で行った。原則として、プリントで学習を進めたが、その際にも、歴史的、専門的知識は必要最小限の事柄にとどめ、現在の人々の生活にどのようにそれらの宗教が影響しているのかを考えさせることに留意した。展開は以下の通りである

1. イスラーム世界① ～ イスラームの概要 成立からアッバース朝まで
2. イスラーム世界② ～ 十字軍以後、現代までのイスラーム世界について

- 3. キリスト教 ～ ユダヤ教とキリスト教 日本への伝来および明治以後の状況
- 4. 日本人の宗教観 ～ 自然崇拜と神道および仏教、日本人の価値観について

〈生徒の反応〉と〈※ 成果と課題〉

- ・近年グローバル化が進むにつれて、海外の人と接する機会が増えた。相手の宗教について理解しておくことで、こちら側が配慮することができると思うので、そのきっかけとして良かった。
- ・イスラーム教、キリスト教、仏教の3大宗教について学び、現在起こっている紛争の背景に宗教があることなどを知り、宗教の重みに気がついた。

※異文化理解の基礎である宗教を正しく理解できたことは大きな成果であり、今後の学習の基礎、基本になるものなので、今後も継続して発展させていきたい。

③「奈良おもてなしプレゼン」の取組と発表

夏期課題として、奈良を訪問する外国人・日本人に奈良を知ってもらおうという主旨で「奈良おもてなしプレゼン」のレポートを作成することを課題とした。県内の行き先を8地域（①奈良・西の京 ②斑鳩・生駒 ③郡山・田原本 ④天理・桜井 ⑤橿原・飛鳥 ⑥葛城〔香芝・広陵・高田・御所〕 ⑦榛原・宇陀 ⑧五條・吉野）に分けて、それぞれに5人を基本とするグループでフィールドワークを行わせた。生徒に役割分担をさせ、グループで7枚（①Introduction〔地域の概要〕②Spot1〔観光地1〕③Spot2〔観光地2〕④Food〔食事〕⑤Activity〔体験〕⑥Souvenir〔お土産〕⑦Problems〔課題〕）をまとめ、それぞれ夏期課題として提出させた。

2学期に入り、課題提出されたレポートをスキャンしたものをプロジェクターやテレビ画面に写して、グループごとに発表させた。各班の発表を他班がそれぞれ5つの項目にわたり評価した。

以下夏期課題のレポート例と発表の様子である。



現代へのあゆみ H30 おもてなしプレゼン。2～観光地①～

Spot① 大神神社 ～歴史と文化に彩られ～ 6 班 担当者

【紹介文・写真など】

【特徴】

【ここが大神神社のオススメポイント!】

【由来】

【出典など】 Wikipedia

魅力的な内容であったか 【企画力】 【調査力】

か 【資料展開力】



〈生徒の反応〉および〈※ 成果と課題〉

- ・自分たちで実際行ってみることで、事前に調べたことだけでは、感じる事ができないよい体験をすることができた。その地域をみんなの前で発表することは難しかったが、自分を成長させることができたと思う。
- ・地元の良さを知ることができた。身近な奈良県について、知っていないようでは意味がない。まずは奈良県を深く知ることが大切なことだと気づくことができた。
- ・奈良県の魅力を訪問客（外国人・日本人）に紹介するというテーマで行ったフィールドワークでは、班での仲が深まり協力することができた。事前学習で、自分たちで行き先を決めたりと、中学の時には体験できなかった経験ができた。また、帰ってきてからプレゼンを行うために班のメンバーでまとめて発表し、各班それぞれの紹介を聞くことができた。仲間作りができただけでな

く、世界の人にも紹介というテーマだったので、グローバルな視点で活動できた。

※最初の課題研究の取り組みで、班の構成メンバーや行き先を決めたり、グループ活動の中で協力し合って事前・事後に話し合いをしたり、計画を立てて現地に赴きフィールドワークしたことは大きな経験になったようだ。今後は、より目的意識をもってフィールドワーク先に行けるよう指導することや、調査後に資料やデータを活用して深く分析できるような指導をしていくことを目指したい。

④「奈良の魅力発展プロポーザル」のポスター作成と発表

3学期の取組「奈良の魅力発展プロポーザル」パワーポイントでの発表に向けて、ポスター作成とポスターセッションを行った。

8つの研究分野	①観光	②環境	③国際協力	④医療・福祉
	⑤地域創生	⑥交通	⑦伝統産業	⑧その他

生徒各自が、上記の8つのテーマから1つを選んで、分野が同じ生徒5人を基準にグループを作り、今回はポスター1枚をグループで作成し、ポスターセッションを行った。

以下ポスターの例と発表の様子である。



⑤ 地域から歴史を見る

「奈良おもてなしプレゼン」の取組で、自ら実際に現地に出かけてフィールドワークを行ったことにより、生徒たちは県内のことについて知識が少ない事を実感したようであった。そこで、「奈良おもてなしプレゼン」の発展的学習として、明治以後の日本の近代化を学ぶ中で、日本と奈良県を比較・対照して、トピックを4つあげて学習した。4つのトピックとは、①交通（鉄道）の発達と歴史 ②近代日本の産業の発達と奈良県の産業 ③信仰と生活 ④日本の教育制度と畝傍高校 というものであった。(プリント参照③と④の2枚)

教科としては日本史Aの日本の近代化（明治期）に該当する範囲である。教材プリントでは、教科書をふまえた上で、深く地域史まで踏み込んだ展開を行った。

現代へのあゆみ 2学期p.2 1年 組 巻 末

近代日本の歴史 日本史の教科書p.42-71 世界史の教科書p.134

年 表 (年)	できごと	解説
1868 (明治1)	戊辰戦争終結	旧幕府勢力などが新政府となる。徳川幕府の幕末維新 (1868) の戦い (1869) まで。
1869 (明治2)		神道を国家化し重んじたために、神社と寺院を明確に区分する。
1871 (明治4)		薩・長・土・肥の4藩主が脱藩 (開国) と改姓 (閉国) を天皇に返上。
1871 (明治4)		全国を合併の準備地にするため、すべての藩を廃止し、旧藩主は家臣に移され、「 <u> </u> 」や「 <u> </u> 」が中央から派遣される。
		の派遣 「 <u> </u> 」が新政府と旧藩との調整を目的として本職を回覧、国内の制度、組織の充実の必要を感じて、新政府の「 <u> </u> 」と「 <u> </u> 」から朝鮮との交渉をはかるようになるが、韓国をつらく朝鮮の閉鎖に押し込まれる。
1873 (明治6)		内閣の官費を賄える「 <u> </u> 」と「 <u> </u> 」らと、正統論を唱え、合併を主張する「 <u> </u> 」らが発見。在籍。
1874 (明治7)		の発出 「 <u> </u> 」らを中心として国会開設を求める老若白黒を合併に賛成。
1877 (明治10)		「 <u> </u> 」が鹿児島で反乱をおこす。官軍に「 <u> </u> 」など武士の神威が確認されたことなどがある。西郷どんにも合併を望んだ。 (1874 (明治7) 年に佐賀の乱) をおこす。また (1878 (明治11) 年に山口県で「 <u> </u> 」の乱) をおこす。また (1878 (明治11) 年に山口県で「 <u> </u> 」の乱) をおこす。
1881 (明治14)		の成立 「 <u> </u> 」が憲法草案を提出し、閣議を召集する。閣議は憲法草案を提出し、閣議を召集する。閣議は憲法草案を提出し、閣議を召集する。
1882 (明治15)		の発出 「 <u> </u> 」が憲法草案を提出し、閣議を召集する。閣議は憲法草案を提出し、閣議を召集する。
1886 (明治19)		の成立 「 <u> </u> 」が憲法草案を提出し、閣議を召集する。閣議は憲法草案を提出し、閣議を召集する。
1899 (明治32)		の発出 「 <u> </u> 」が憲法草案を提出し、閣議を召集する。閣議は憲法草案を提出し、閣議を召集する。
1899 (明治32)		の成立 「 <u> </u> 」が憲法草案を提出し、閣議を召集する。閣議は憲法草案を提出し、閣議を召集する。

憲法草案 (はいがっさしやく) とは、神仏分離をうけて、仏教を排斥する目的で制定された。奈良において、高僧の廟を正統から裏切ったのが、鹿野、中倉堂が再興された。【鹿野氏の神】と一神のものだったが、神仏分離によって分離され、鹿野氏もまたこの時期に、五重塔が、わずか5月で完成に出された。鹿野氏もまたこの時期に、五重塔が、わずか5月で完成に出された。鹿野氏もまたこの時期に、五重塔が、わずか5月で完成に出された。

奈良県の設置

1871 (明治4) 年、奈良県が設置された。この時期に、五重塔が、わずか5月で完成に出された。鹿野氏もまたこの時期に、五重塔が、わずか5月で完成に出された。鹿野氏もまたこの時期に、五重塔が、わずか5月で完成に出された。

奈良県の民権運動家

1840 (天明10) 年、今の奈良県吉野郡川上村で生まれる。林義太郎。1877 (明治10) 年、自由民権家と交際し、1881 (明治14) 年に大隈立憲党 (立憲自由党) が結成されるとこれに加わり日本立憲政友会新聞の編集者となる。また自由民権運動の指導者として知られる。また、自由民権運動の指導者として知られる。また、自由民権運動の指導者として知られる。

現代へのあゆみ 2学期p.5 1年 組 巻 末

二つの世界大戦と日本 日本史の教科書p.116-136 世界史の教科書p.116-136

年 表 (年)	できごと	解説
1921 (明治34)		「 <u> </u> 」の原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。
1928 (明治41)		神威の威光により、甲申一内閣は従来の体制を踏襲する。神威の威光により、甲申一内閣は従来の体制を踏襲する。神威の威光により、甲申一内閣は従来の体制を踏襲する。
1929 (明治42)		ニューヨーク証券取引所で暴落が起きる。ニューヨーク証券取引所で暴落が起きる。ニューヨーク証券取引所で暴落が起きる。
1930 (明治43)		「 <u> </u> 」の原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。
1931 (明治44)		日本の中国満洲に侵略する。日本の中国満洲に侵略する。日本の中国満洲に侵略する。
1932 (明治45)		満洲国を建国する。満洲国を建国する。満洲国を建国する。
1933 (明治46)		満洲国を建国する。満洲国を建国する。満洲国を建国する。
1936 (明治49)		「 <u> </u> 」の原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。
1937 (明治50)		北支那の「 <u> </u> 」で日本軍と中国軍が衝突。北支那の「 <u> </u> 」で日本軍と中国軍が衝突。北支那の「 <u> </u> 」で日本軍と中国軍が衝突。
1938 (明治51)		満洲国を建国する。満洲国を建国する。満洲国を建国する。
1939 (明治52)		ドイツがポーランドに侵襲。ドイツがポーランドに侵襲。ドイツがポーランドに侵襲。
1941 (明治54)		日本が真珠湾を襲撃。日本が真珠湾を襲撃。日本が真珠湾を襲撃。
1945 (明治58)		サイパン島陥落。サイパン島陥落。サイパン島陥落。
1945 (明治58)		東京空襲。東京空襲。東京空襲。
1945 (明治58)		東京空襲。東京空襲。東京空襲。

「 」の原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。

神威の威光により、甲申一内閣は従来の体制を踏襲する。神威の威光により、甲申一内閣は従来の体制を踏襲する。神威の威光により、甲申一内閣は従来の体制を踏襲する。

ニューヨーク証券取引所で暴落が起きる。ニューヨーク証券取引所で暴落が起きる。ニューヨーク証券取引所で暴落が起きる。

「 」の原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。

日本の中国満洲に侵略する。日本の中国満洲に侵略する。日本の中国満洲に侵略する。

満洲国を建国する。満洲国を建国する。満洲国を建国する。

満洲国を建国する。満洲国を建国する。満洲国を建国する。

「 」の原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。原形の子孫が誕生する。

北支那の「 」で日本軍と中国軍が衝突。北支那の「 」で日本軍と中国軍が衝突。北支那の「 」で日本軍と中国軍が衝突。

満洲国を建国する。満洲国を建国する。満洲国を建国する。

ドイツがポーランドに侵襲。ドイツがポーランドに侵襲。ドイツがポーランドに侵襲。

日本が真珠湾を襲撃。日本が真珠湾を襲撃。日本が真珠湾を襲撃。

サイパン島陥落。サイパン島陥落。サイパン島陥落。

東京空襲。東京空襲。東京空襲。

東京空襲。東京空襲。東京空襲。

〈生徒の反応〉と〈※ 成果と課題〉

- ・ 敵傍高校の周辺だけでも様々な歴史的背景があることを知り、教科書にはのっていない奈良の地域的な歴史を学ぶことができ、自分の住んでいる地域に興味を持つことができた。
- ・ 奈良県の歴史から、歴史の大きな流れの中での人々の生き方や仕事、日本の当時の状況が知れて面白かった。
- ・ 自分の住む地域を様々な視点から知れて良かった。日本や世界の大きな出来事に奈良の人が様々な形で参加していたと知り、身近なところでも日本全体を動かすような出来事が起こっていたのは不思議な感じもしたが、面白く感じた。敵傍高校出身の著名人もたくさんいて、私も自分自身で行動できる人になりたいと思った。

※日本と奈良県を対比させることにより奈良の現状が詳しく理解できて良かったと思われる。しかし、

授業時間の制約もあり、何をどこまで踏み込んで学ぶのか、どのような方法で展開していくのかについては今後も検討の余地が残る。

⑥早稲田大学真辺先生による講演

日本の近代化に関する学習の一環として11月30日に早稲田大学の真辺先生にご来校頂き「歴史を研究するということ」というテーマでご講演頂いた。先生自身が研究者になられた経緯や、大学で学ぶ意義や研究の方法、そして、アジア各地に残る碑文などの史跡からアジアと日本との関係についての幅広いお話を伺った。普段では聞くことのできない大学の教官の奥深い話を通じて、学問研究の楽しさを感じた生徒が多かった。

⑦「奈良の魅力発展プロポーザル」のパワーポイント作成と発表

3学期の取組として「奈良の魅力発展プロポーザル」の活動を行った。2学期のポスター作成をしたグループで、今回はパワーポイントを作成し、プレゼンテーションを行った。課題分析や検証が論理的であるか、資料や数値を示して説得力のあるプレゼンテーションになっているかを評価した。以下、生徒たちに評価させた項目は以下の5項目である。評価表（別紙抜粋）

A. テーマや仮説およびその設定理由が明快で、興味を引かれるものであるか	【企画力】
B. 現状分析や検証において、写真や資料を使って説得力のある発表であったか	【資料活用力】
C. 現状分析から仮説・検証・提言まで一貫して論理的に説明できているか。	【論理構成力】
D. 分かりやすい発表であったか。	【表現力】
E. グループとして協力して取組が出来ていたか。	【協働力】

〈生徒の反応〉と〈※ 成果と課題〉



・身近な課題を見つけることの意識が高まった。また、奈良の現状についても知らないことがほとんどで驚いた。今後地元のことをよく知っておくことも大切だと思うし、課題を見つけ対策を考えることは様々な面で役に立つと思う。

・ただ調べたり、暗記するだけの勉強とは違うので、今までの経験とは違って難しかった。でも、今回自分たちの意見をまとめて発表したり、他の班の発表を聞くことで、自分の発表の課題や他の班の発表の良い点を知ることができた。

※パワーポイントを作成するのに必要な時間確保が難しい。発表の形式を示したことにより、仮説—検証型の研究発表ができ、生徒の思考方法に一定の基準が作られた。発表内容については、より深く考察できるように、事前からの取組が必要と思われる。また、資料分析などについても同様である。個人の研究をもとにグループでの研究を行う方法については、今後もより効率的な方法を模索していくことも必要である。

⑧SGH発表会について

2月9日、1、2年合同のSGH発表会が開催された。各学年より優秀な作品を3グループ、合計6グループが選出され、それぞれの研究テーマでプレゼンテーションを行った。活発な質疑応答も行われ、また当日参加頂いた外部講師の先生方からも指導助言を頂いた。

1年生の発表およびテーマは以下の通りである。

① 「高齢者の交通革命」（交通）

- ② 「宿題のない世界」 (教育)
- ③ 「少子高齢化対策～これからの世界にできること～」 (地域創生)

<h2 style="color: red; text-align: center;">高齢者の交通革命</h2> <p style="color: blue; text-align: center;">～ホントにコミュニティーバスでいいの??～</p> <p style="text-align: center;">1年10組 6-A班</p>	<h3 style="color: red;">2.日本のドライバーの「今」</h3> <p style="font-size: small;">(内閣府調べ75歳以上平成28年時点) 〇は推計値</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: x-small;"> <tr><th>年</th><td>2007</td><td>2009</td><td>2011</td><td>2013</td><td>2015</td><td>2017</td><td>2019</td><td>2021</td></tr> <tr><th>人数(万人)</th><td>283</td><td>324</td><td>375</td><td>425</td><td>478</td><td>542</td><td>595</td><td>613</td></tr> </table>	年	2007	2009	2011	2013	2015	2017	2019	2021	人数(万人)	283	324	375	425	478	542	595	613	<h3 style="color: red;">13. 私たちの仮説</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・バスは不便、クルマがいいよね ・運転に自信がないから自動ブレーキつけよう ...
年	2007	2009	2011	2013	2015	2017	2019	2021												
人数(万人)	283	324	375	425	478	542	595	613												
<h3 style="color: red;">1. 動機</h3> <p style="color: red; text-align: center; font-weight: bold;">現在 高齢者による 交通事故が増加！</p>	<h3 style="color: red;">4. いままでの改善策と問題点</h3> <p style="color: red; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">およつと待ては</p>	<h3 style="color: red;">23. 提言！</h3> <p style="font-size: small;">地方自治体から</p> <p style="font-size: x-small; text-align: center;">300万円以内の先進安全装備搭載車 を買う満65歳以上の人に</p> <p style="color: red; text-align: center; font-weight: bold;">補助金を支給すべきだ！</p>																		

〈生徒の反応〉と〈※ 成果と課題〉

- ・自分たちで進んで行動していくことの大切さを発表から感じた。どの班も探求心や行動力があって見習いたいと思った。
 - ・資料の対比、言葉の定義づけ、内容をより深く、筋道立てていくことの大切さを実感した。
 - ・発表を聞いて自分は指摘することができないと思うくらい良かったのに、指導助言者の人は鋭く見ていて感心した。自分も色んな視点でものごとをみれるようになりたいと思った。
- ※ 指導助言で、課題研究は自分の事としてどれだけ考えられているか、言葉の定義を丁寧なすること、データの活用方法などについて、多くの具体的な示唆をいただいた。発表ではデータの出典に関して、インターネットからの引用が多いのではないかとのご指摘をいただいた。今後の指導の参考にしていきたい。また、2学年合同で行うことに関しては、1年生にとっては大きな刺激となり、今後の目標となるので、大きな成果があると思われる。

〈授業アンケートの分析と総括〉

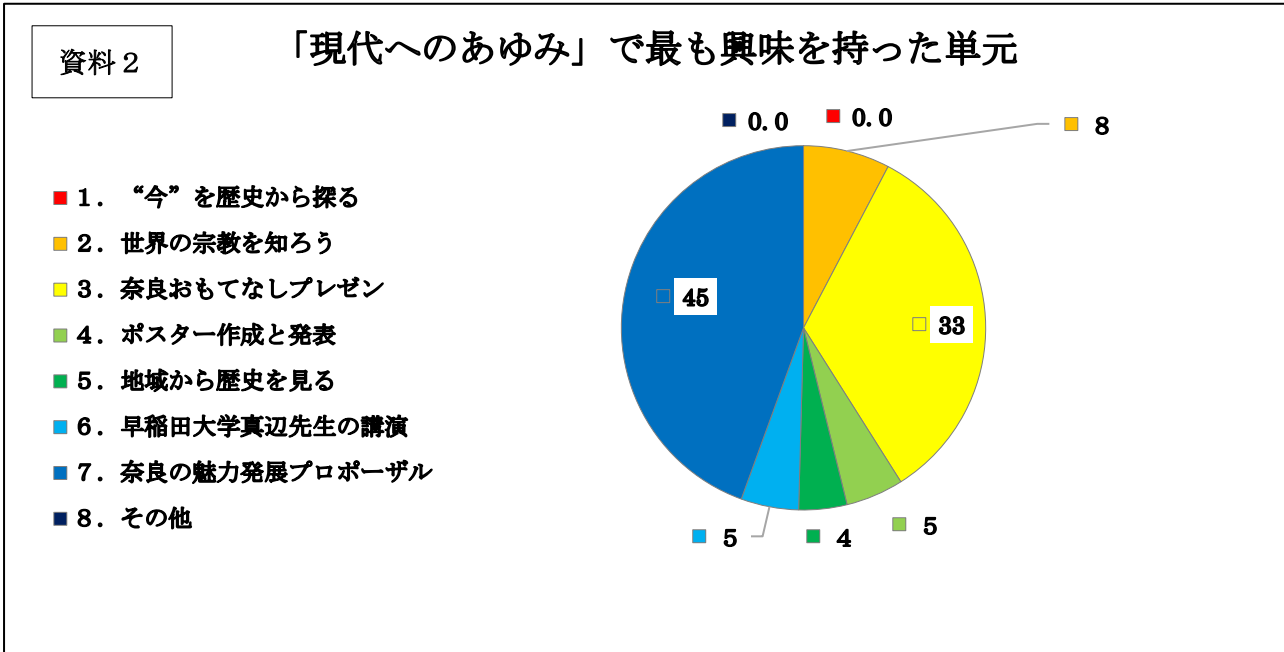
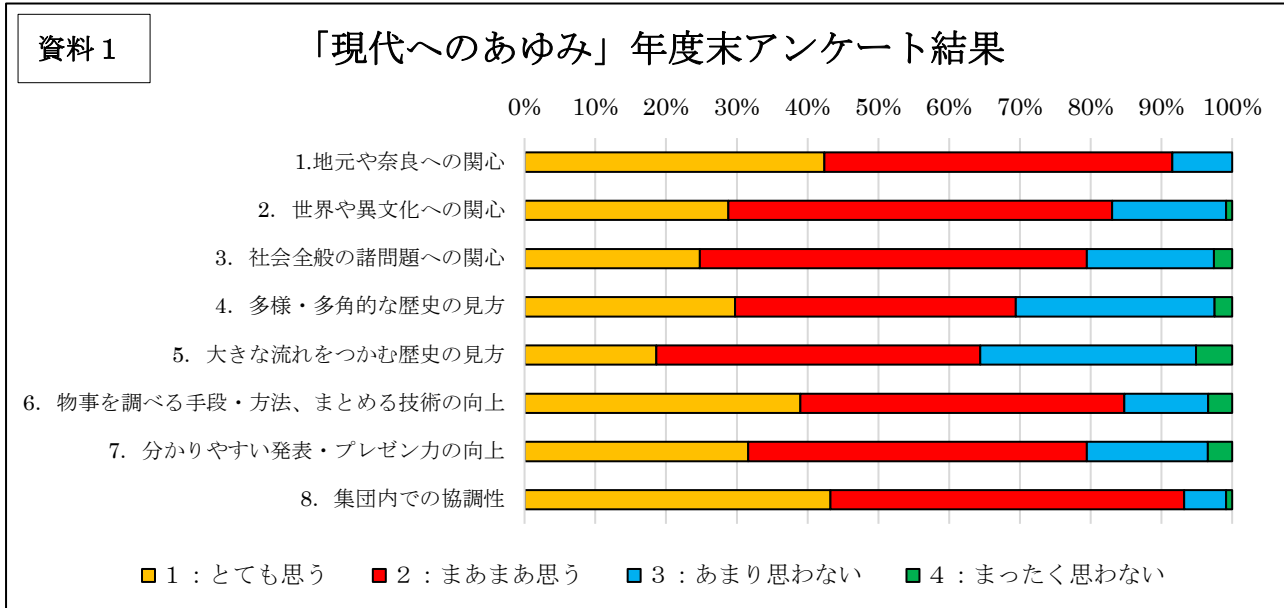
1年間をふりかえってのアンケート結果によると、資料1に示されるように、8. 集団内での協調性、1. 地元や奈良への関心、6. 物事を調べ、まとめる技術の向上、などの項目に対する評価が高かった。これは、奈良の魅力や課題等について、グループで現地に足を運んで調査したり、資料を収集する中で話し合いを深め、協働的な活動を通して発表につなげていくなど、生徒の主体的な取組が肯定的にとらえられた結果である。このことは、資料2に示されている、生徒の最も関心や意識が高まったものが、「奈良おもてなしプレゼン」の取組や「奈良の魅力発展プロポーザル」の発表であったという結果とも密接に関わっている。

ただ一方で、一年間の授業時数の制約もあり、まさに「現代へのあゆみ」を歴史的に体系立ててとらえる機会を十分確保できなかったことは、生徒のアンケート結果にも表れていて、これについては、2年生から学ぶ通史で補っていく必要がある。

自由記述において、自分たちで課題を知り、解決方法を探究することで、より理解が深まるとの認

識が示されるなど、課題研究の意義が実際の活動を通して生徒にも伝わったものと考えられる。

以上のような分析結果から、「現代へのあゆみ」で培われた企画構想力や情報分析力、コミュニケーション能力、表現力などは、次年度以降の授業や将来にわたり十分活用できる力になり得ると考えられる。



(8) 学校設定科目「現代の課題」について

<仮説>

生徒自らが現代社会の諸問題を課題研究し、さらにそれを発展的に研究する科目を設定することで、情報活用力、表現力、対話力、企画力が育成される。

<目標>

身近な地域の実態や諸課題を研究し考察することで、現代の日本や世界で起こっている諸課題について主体的に学習し、その課題解決を考察する。また、奈良TIMEのフィールドワークと連携しながら地域の課題を研究・考察し、情報収集の方法や研究の進め方、プレゼンテーション力の向上を図る。

現代の社会において、ローカルな課題は見方を変えるとグローバルな課題でもある。ローカルからグローバルに考えたり、グローバルな課題をローカルに展開したりする姿勢を身につけさせる。

また、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）についても学習し、自分たちが取り組む課題がSDGsのどの分野に当たるものなのかを意識して取り組ませた。

<内容>

〔1〕年間計画

昨年度の「現代へのあゆみ」においては、現代の世界や各地域の諸課題が、その歴史的要因から起因することを学習し、諸課題の原因などについて歴史的要因を究明しながら探求すること方法を学習した。

本年度は、昨年度の取り組みをさらに深め、課題の原因やその障壁となっている事項を幅広く追求し、問題解決に至る過程を多角的に分析し、論理的に追求することを目標とした。

1学期には5月に2度行われる「奈良 TIME」のフィールドワークと連携し、その問題点と課題を検証し、それを自らの課題研究と関連づけて考察した。また、グローバルな課題を探求する糸口として現代の国際社会についての理解を深めるために、民族紛争や地域紛争について、国際政治を軸として学習した。2度のフィールドワークを通じて、自分の将来の進路に関連した課題を設定した。各自が、どのテーマの研究を行うのかをまず決定し、その後、同様のテーマを選択した生徒で研究グループを結成した。

夏休みの課題として、グループでの課題研究として「未来への提言 First Stage」の取り組みを行った。2学期には、その課題を1枚紙ポスターの作成をして、クラス内で発表した。また10月中旬のシンガポールへの海外研修の関連学習として、海外研修後、国際経済の学習を展開した。

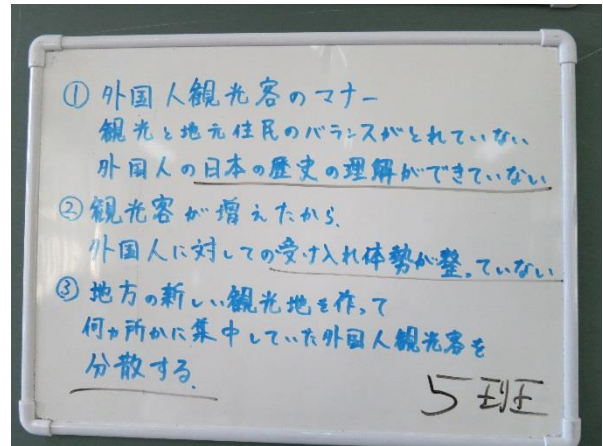
3学期は、2学期前半に行ったポスター発表をさらに深化させ、それをパワーポイントで展開しプレゼンテーションを行った。

〔2〕授業の実施方法

生徒が主体的に課題を設定し、その解決に向けての方策を探求すること（課題研究）がこの授業の大きな目標である。その前提として、世界や日本でどのような事が課題となっているかを理解することが必要となる。課題の学習には、その課題の正確な知識や理解が必要となってくる。

そのため、授業では、必要な情報や知識を得るというインプットの学習活動と、得た知識を分析し、解決に向けての方策を考察、表現するというアウトプットの学習活動を展開した。この2つは別々に設定されるものではなく、授業の中で生徒達の理解度を確認しながらも、意見を述べさせるというように相互補完的に展開した。

授業は担当者が課題を提示し、その課題について、現状、原因、解決方法などをペアワークやグループワークを通じて討議し、他者と意見を交えながら深く考えることを目標とした。グループワークなどでは、黒板に掲示できるホワイトボードに意見を書かせて発表させたりもした。〔写真参照〕



[3] 単元ごとの取り組み

以下、年間を通じての取り組みのテーマは以下の通りである。

- (1) SDGs とは何？
- (2) 「奈良 TIME」フィールドワークへの取り組み
- (3) 地域紛争と民族 国家とは何か 以上 1 学期
- (4) 夏期課題『未来への提言 First Stage』の取り組み
- (5) ポスター発表の取り組み
- (6) 国際経済について 以上 2 学期
- (7) パワーポイント プレゼンテーションの取り組み 以上 3 学期

<各テーマの取り組み>

(1) SDGs とは何？

1年間の授業の導入として、昨今の観光客の大幅な増加が逆に地域住民とのトラブルを起こしているオーバーツーリズムの問題を取り上げ、その社会的背景を考察した。なぜ、そのような問題が起こるのか。問題の解決にはどのような手立てが考えられるのかを個人、その後グループで話し合った。

現代の課題 1
2030年までのゴール “SDGs(持続可能な開発目標)”とは？

★ まずは3つの記事を、気になるところに線を引きながら読んでみよう。

A: 奈良外国人客、初の1千万人超え。全訪日客の9人に1人が大阪に ～『産経WEST』(2018.1.17)

平成29年に大阪府を訪れた訪日外国人等(インバウンド)数が1110万人。消費額は1兆1731億円になったこと第1号目。分かった。大阪観光局によると、訪日客1千万人。消費額2兆円超えは計開港後初の物産の町安部や橿原市観光局での格差航空会社(LCC)の拠地が得意とみられる。国内全体では2860万人で、3人に1人以上が大阪を訪れたことになる。一方、国内全体での消費額は初めて4兆円を突破。政府は32年までに4千万人に引き上げる計画で、悪引(けんいん)税としての大阪に期待がかかる。

実施した新目標は奈良大学が実施した3年に159万人だったが、開港中のLCC専用ターミナル設置や政府による差延(びや)発給要件の緩和を受け、中国や韓国、台湾を中心とした観光客。米クレジットカード大手が昨年発表した「世界観光先ランキング」でも、大阪への観光客数(2009-16年)の年平均増加率は2.4%で世界132都市中トップだった。

大阪観光局が開港での試算を基に算出した訪日客の総消費額は、平成26年の266.1億円から29年には総額で約4倍の1兆1731億円に達した。

消費額全体のアクセスの良さをめぐり、市内での公共交通機関LARD(ライト・ライフ)「ワイフアイ」の導入の動きなどが期待とみられる。

B: 京都、観光客増に悲鳴 ～『朝日新聞』(2017.6.14 少子)

急増する外国人観光客が日本国内の観光都市・京都に押し寄せ、住民の日常生活に悪影響が出始めている。バスは満員、違法民泊も増え、「もはや限界」「観光公害」という声が出るほどだ。その上で人口が減り、行く先を減らす地区もある。国が進める「観光立国」に悲鳴はないか。

石畳に白川の水をせり上げるが響く祇園新橋地区。京都府が選ぶこの観光スポットで今年、地元住民が大きな声を出した。27年前から続けられてきた伝統のライトアップを中止したのだ。「花見客が多過ぎ、人混みを避けること何年か考えた。地元では受けられない」と考えた。ライトアップ実行委員会代表の藤田新樹さん(70)は言う。最近では、観光向け前乗り写真にも顔を覆っている。景観壊れかねない「売り」にしたビジネスが広がる。業者が海外からも競売とカップルを連れてくるからだ。道端に男女が列をなす日も。次開港での集客を想定してトラブルになったこともあると

現代の課題 2
2030年までのゴール “SDGs(持続可能な開発目標)”とは？ Part2

2015年9月に国連サミットで採択。この17のゴールは、「誰一人取り残さない(No one will be left behind)」という考えに基づくもので、これから創っていく未来で生きていく、すべての世代がすべての人々のための目標である。

SDGsのゴール設定のポイントはその3つ。
① 貧困の撲滅(経済・社会開発)と持続可能な社会(環境保全)の両立
② 不平等(格差)の是正
③ 開発途上国だけでなく、すべての国に適用される

持続可能な開発目標(SDG)に示された17のゴールと169のターゲットはどれも、人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップという5つの要素のいずれか一つ以上に結びついている。

上のヒントジャンルを参考に、下記の3つを考えてみよう。

ヒントジャンル: 環境、技術、生活、食料、資源、都市、教育、経済、医療、文化、言語、通信、国家、安全、平和、平等、人権、住環境、情報、ネット、思想、生物

A. 100年後には無くなってしまったあなたが思うものは何？

B. いまこんなものがあつたらいい(ペーパー)とあなたが思うものは何？

C. 100年後にも残ってほしい(ペーパー)とあなたが思うものは何？

D. “あつたらいいもの”と“残したいもの”を両立させるためにどうしたらいいと思う？

E. 30年後にあなたが「関わりがあるよな」というものは何がある？

上のA～Cをよませてー

人間 豊かさ 地球 平和 パートナーシップ

また社会の急激な変化の中で、100年後には無くなってしまいかもかもしれないもの、一方で、今後も

残ってほしいものを考えさせ、そのために何ができるのかを話し合った。

〈生徒の反応〉と〈※ 成果と課題〉

「100年後には無くなっている可能性のあるもの」では、太平洋上の国家や、現金、黒板を使う授業など多くの視点から様々な回答が多く出た。また、「100年後にも残ってほしいもの」では、平和、母校 笑顔、平等、自然など これもモノだけでなく多くの回答が出された。生徒からは、「今ある社会の様々なモノや制度も、永遠ではなく、守り続ける努力をすることが大切だと思った」という声が多く出た。

※普段なかなか意識しないことを、100年という大きなスパンで考える訓練はとても刺激的だったようだ。このような取り組みを通じて、物事を俯瞰できる視点を身につけさせたい。

(2) 奈良 TIME フィールドワークの取り組み

本校では、2年生の1学期に2回にわたり、校外へのフィールドワークを行う。1. 観光・歴史
2. 国際協力、3. 生命と環境の3つの分野で全15コースから、2つを選択する〔以下一部抜粋〕。各自が希望した2つのコース（日程として前半をA日程、後半がB日程）について、授業で事前学習を行った。

また、それぞれに事前に質問や問題点を考えて当日臨み、事後にはその成果や新たな疑問点を記入しまとめを行った。

平成30年度 第2学年 奈良TIME フィールドワーク 実施先一覧				
☆ 生徒は「A」の中から一つ、「B」の中から一つを選択します。(すでに希望調査済み)				
☆ 日程と講座は下記の通り。				
奇数クラス→①(5/8):A、②(5/29):B 偶数クラス→①(5/8):B、②(5/29):A				
No.	講座名	内容	場所	想定領域
A2	奈良県の林業と木材の活用	吉野の人工林の実態を現地で学習するとともに、県産材の魅力とその活用について学ぶ。	吉野郡川上村及び吉野町の山林及び集会所、製材所等	②国際協力 ③生命と環境
A3	地域医療の取組	国が進める地域包括ケアシステムを受けて、宇陀市立病院が“住み慣れた場所で住み続けるために”と設置している地域包括ケア病棟の取組や病院施設について学ぶ。	宇陀市立病院(榛原)	②国際協力 ③生命と環境
A4	水を守る	生活や工場で生じた下水はどのようにして自然に帰されるか。その現場を見ることで、生命と環境について考える。	奈良県流域浄化センター(大和郡山田市)	③生命と環境
B1	地域を支える行政の取組とテクノロジー	県内企業への支援を通して、地域の活性化を目指す様々な研究や事業を行う行政の視点を見学することにより、科学技術による地域活性化や環境保全の取組や状況などを学ぶ。	奈良県産業振興総合センター(奈良市柏木町)	①観光・歴史 ③生命と環境
B2	神道を学ぶ	神道を中心に日本における宗教文化や日本人の宗教に対する意識を学ぶ。大神神社の神殿などを見学し、神社の管理運営について学ぶ。	大神神社 他(桜井市三輪)	①観光・歴史 ②国際協力
B3	奈良の伝統産業と自然の関わりを知る	日本皇古の薬草園とも言われる薬園を訪ね、多種の薬草を知るとともに、伝統的な葛製品について学ぶ。その後古民家を訪ね、その保存についても学ぶ。	森野旧薬園・松山地区まちづくりセンター、黒川本家 他(宇陀市大宇陀)	①観光・歴史 ③生命と環境

フィールドワーク後には、事後レポートを提出させた(以下「フィールドワークで奈良の実態と課題を知ろう」)。質問項目は、以下の5点である(写真参照)。その中で、3. 実際にどのような課題や問題点があったか、4. またその課題を解決するためには、どのようなことが出来るのかを考えてみよう という項目をまとめることにより、単に現地の方にお話を聞くだけではなく、事前に自分たちが調べたことと、実際の状況を見ての違いや、またその中で新たに生まれた疑問点や発見を今後の課題研究に生かせるようにした。

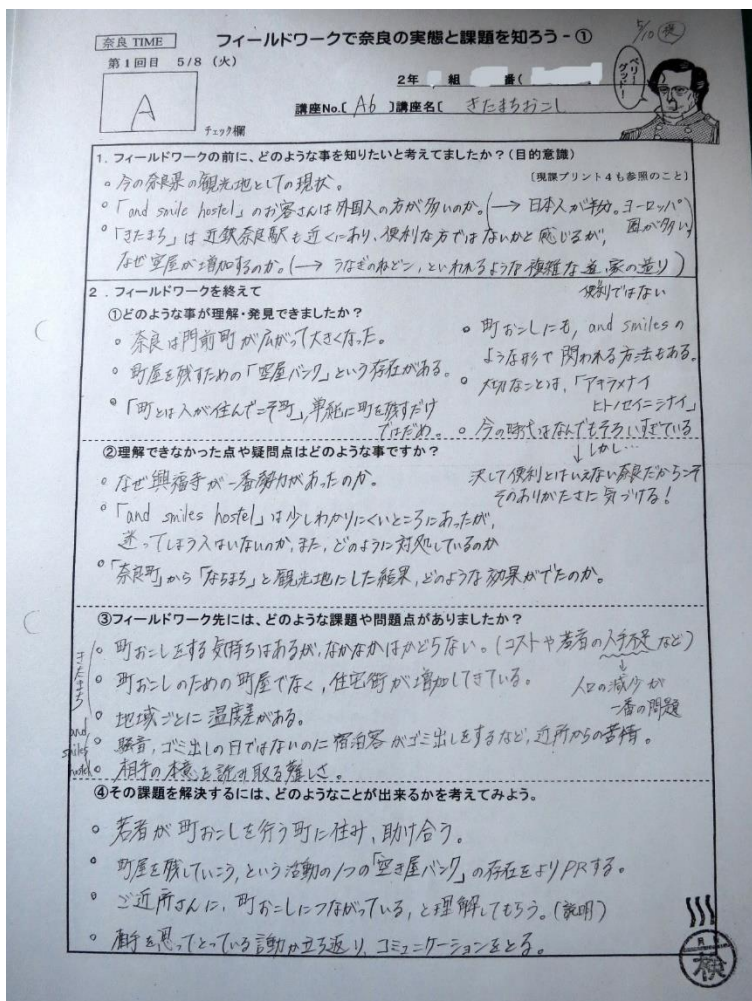
〈生徒の反応〉と〈※ 成果と課題〉

※2度のフィールドワークで生徒たちは自分たちが、ネットや書物などで調べたことだけでなく、

生の声を聞くことで、より課題について深く理解したようである。また、調査の方法なども多方面からのアプローチに取り組めるようになってきた。

(3) 地域紛争と民族 国家とは何か

現代の諸課題を探究するにあたり、基本的な国際情勢を学習しておくことは必須であると思われる。世界には未だに多くの紛争が絶えず、その理解なしには問題解決の糸口がつかめない。そこで、世界の紛争や民族問題を導入で取り上げ、その後、第2次大戦後の戦後政治の流れを学習した。



ここでもグループ学習の方法をとり、各グループで取り上げてみたい国を3つあげて、それぞれに民族、宗教、言語について調べさせた。理型で地理選択をしている生徒は、既習のものもあり、科目を超えた関連性を見いだしていた。10月の海外研修の関連からその地域を学習しようとするグループも多くみられた。日本においても、アイヌ民族の存在など文化の多様性に気づいたグループもあり、多くのグループが他のグループにも高い関心を示していた。

(9) 学校設定科目「現代の課題α」について

<仮説>

課題研究の深化や英語による講座、討論を少人数で行い、学年内でのリーダー的存在を育成することで、学年全体で取り組んでいる本校のSGHの取組がより発展し、他の生徒のリーダー的資質の向上を図ることが出来る。

<目的>

連携大学やUNWTOなどの関係機関と連携や、交流校であるオーストラリアのバイロンベイ高校への海外フィールドワークを通して、課題研究に係る内容について深化させた講座や討論などで英語を使う機会も設けながら学ぶことにより、将来的にも活用できる英語によるコミュニケーション能力の向上と、生徒の企画力、創造力、対話力、表現力、情報活用能力を身に付けさせ、責任感や使命感を持った学年全体の中でのリーダーを育成する。

<内容>

①コースの設定にあたって

「現代の課題α」は「アドバンストコース」を選択した生徒が履修する。所定の課程を修了したと認められる者には、第2学年に増加単位1単位を付与する。このコースの概要については第2学

年生徒を対象に4月当初に学年集会を通じて説明を行い、6月に募集を開始、募集人員は20名程度とし、希望者が定員を大きく上回る場合は作文試験と面接を課すこととした。平成27年度は希望者人数が23名ということで選考を実施していないが、平成28～30年度は、それぞれ40名程度の応募がある中から選考を実施して、24名、21名、19名のメンバーを選出した。

②平成29年度生（3期生）の活動（オーストラリア海外フィールドワーク）

1日目（3/8 [木]）出発

アドバンストコース3期生が、予定どおり関西国際空港からオーストラリアに向けて出発。翌日午後に交流校に到着する。生徒たちの明るい表情が印象的だった。

2日目（3/9 [金]）現地到着

約六時間のフライトを終え、早朝五時にケアンズ国際空港に到着。自動化された入国手続きに意外と手間取るも、検疫申請を済ませて無事オーストラリアの地に立った。その後、国内線を乗り継ぎ、ゴールドコースト空港を経て、バスで交流校に向けて移動。長旅の疲れも見せず、生徒は車中意気軒昂、快晴の空の下、交流校バイロンベイ・ハイスクール（BBHS）に到着、歓迎を受けた。



体育館で Janine 校長からお話をいただき（「夜空を見上げて、南十字星を見てくださいね」とのお話）、生徒はホストファミリーと対面、すぐに打ち解けて各家庭に向かう。

研修地バイロンベイは、人口9,000人程度、ニューサウスウェールズ州でも小さい部類に属する町である。もともと捕鯨の町だったが、その後、長い砂浜や自然を生かした観光や保養の町として再生したのが現在の姿である。おだやかな気候とホスピタリティに溢れる人々が暮らす小さな町は、(1)町の規模、雰囲気と安全性、(2)見所や見習うところ（持続可能な観光のあり方）の多さ、という点で条件がよく、また交流校は(3)複数の日本語クラスをもつ（ホストファミリーの受け入れ先が多い、先方の交流意欲も高い）等の点で、本校生が落ち着いて研修を行うのに非常に適した条件を有している。

3日目（3/10 [土]）

ホームステイ先で過ごす日程だが、学校が主催して合同のバーベキューパーティーが開催された。あいにくの小雨のため、場所をビーチから学校に変更しての実施だった。生徒たちの様子を確認したが、各家庭で過ごした一夜がとてもよい体験だったことがうかがえた。

今回の研修に際し、事前指導の中で各自に「個人ミッション」を設定させた。小さなことでも、自分で事前に決めたことをテーマに、オーストラリアでの体験を生き生きしたものにさせる目的だったが、早くも「サーフィンをする」などのミッションの達成を告げる生徒がいた。



4日目（3/11 [日]）

この日は、それぞれの生徒がそれぞれのホストファミリーと終日過ごした。周辺地での観光、浜辺での休日やバーベキューなど、様々な一日を過ごしたようである。

5日目（3/12 [月]）

この日から三日間、授業に入りながら BBHS を体験する。初日は、午前が Bellinda 先生の日本語クラスで授業体験と交流。ホストファミリーの生徒よりやや若い 7Degree（中学2年生に相当）の生徒たちに混じって、賑やかに活動に取り組んだ。授業テーマは「スキット」（日本人の生徒は英語で、BBHS の生徒は日本語で、短い会話劇を、グループ全員で相談・参加して演じる）。本校生も、グローバル英語で培った力を生かし、違和感なく授業に参加できていた。BBHS の生徒も、中学2年ながら、ブレインストーミングによる相談、セリフの色分け作業など協働型の学習に豊富な経験があるところが見られ、非常に印象的だった。



午後からはバス移動で、近隣にある“The Farm”という持続的な開発（SD）をテーマに掲げた体験型農場の見学をした。環境問題への取組、オーストラリアの歴史と自然、そして食の安全や社会の仕組みについて学ぶことができた。

この日から、少し体調不安などを抱える生徒が出てきており、引率教員に連絡が入り始めた。生徒には、全てを抱えるのではなく周囲と相談すること、それも勉強の一つ、とアドバイスをしつつ、教員側では対応準備を進めた。教員の滞在するモーターには二部屋を借りており、ホストファミリー

でトラブルが発生した場合には、その一室に生徒を受け入れることも想定している。

6日目（3/13 [火]）

この日も午前中は昨日と同じように日本語クラスの授業に参加した。自己紹介では、ペアを作ってお互いを紹介するなど工夫があり、英語の技能と共にグローバル国語で取り組んだインタビュー、1分間スピーチなどの学習の成果が生かされたのでは無いかと思う。二時間目はグループに分かれて、時事問題についてのディスカッションだった。教室にこだわらず、校地全体を生かして木漏れ日の下、芝生の片隅で行われるセッションは、とても印象的だった。

BBHS の時間割は、1 限目（70 分）、2 時間目（50 分）のあと、20 分間のリセ（昼休み）がある。生徒は、迎えに来たホストブラザー、シスターとともに昼食をとり、午後の活動に備えた。昼食は、ホストファミリーからランチを用意してもらっている者、学校の購買を利用する者と様々である。

午後は、バイロンベイの象徴の一つ、かつて捕鯨を支えたライトハウス（灯台）の見学に向かった。灯台の中は資料館になっており、町の歴史を知ることができる。

また、現地で、オーストラリアの先住民アボリジニのガイド Deltaさんから、アボリジニの文化、神話等について、体験を交えた約1時間半のレクチャーを受けた。

7日目（3/14 [水]）

研修最終日、一時間目は、本校の生徒たちが日本を発つときに準備してきたプレゼンテーションを発表させていただいた。

期末テスト、事前受験と旅行準備の合間を縫って作成した発表は、正直まだ完成度が十分とは言えない状況だったが、厳しい条件の中でも主張をまとめ、BBHS の生徒に伝えることができた。たくさんの



質問や感想をもらったことを、未来創造会議に向けて生かしていく予定である。



水曜の二時間目は BBHS の Assembly(全校集会)の時間だが、ここで本校生たちは壇上に呼ばれ、コーディネートの担当の Kristina 先生から一人一人に修了証が手渡された。短い間とはいえ、BBHS で一緒に学んだ日々を形にされ、生徒たちは感激していた。そして、別れを惜しむ生徒たちを連れて、BBHS と町を後に、翌朝一番の飛行機に乗るため、バスでゴールドコーストに移動した。途中、最後の研修地である Currumbin Wild Sanctuary を訪れた。

ここは、もともと傷ついた野鳥の保護施設からスタートした動物園で、現在も傷ついた野生動物を保護し野生への復帰をサポートする社会的意義をもつ施設である。同州の多くの学校の生徒もここで動物との触れ合い方や環境保護について学んでおり、教育施設としての意義も高い。今回も、短時間ながら職員の方の案内でバックヤードツアーを実施していただいた。

翌朝早くにホテルを出立する事情もあり、この日は早めに食事をとって就寝した。生徒たちもさすがに研修の疲れからか、部屋に早く戻る様子だった。

8日目(3/15 [木])

予定通り、遅れる者なく早朝に集合し、バスで空港に向かった。そうして、往路と同じルートで飛行機を乗り継ぎ、夜に、無事関西国際空港に到着することができた。一時間の時差があるとはいえ、地球の大きさを実感させられる距離感ではある。出迎える家族の皆様にも、少し成長したたくましい顔で応じる生徒を見送りつつ、研修を無事終えた。八日間の研修は、予定した成果を上げ、まずは成功裏に終えることができたのではないかと考える。

この研修が生徒にもたらすものはもちろん様々ではあるが、一様に言えることは「達成感」であったように思う。未知の環境に飛び込み、自分一人で考え、判断し、コミュニケーションをしながら全身で異文化を体験し、それを一週間やり遂げてきたという自信が、十代の生徒に与える影響は非常に大きいと感じた。その意味では、もともと単純に生徒を海外に連れて一週間、というだけで十分な効果を期待することはできるだろう。

しかしながら、今回担当教員が工夫して行った細々とした種々のフォローは、研修を成功裏に導く上で、やはり小さくない効果を上げていたと感じる。事前学習でテーマを与えたこと、SNS を活用した途中での支援、スムーズな行動計画と調整、記録や学校への報告、変化するスケジュールへの柔軟な対応…等々、引率の仕事は多岐にわたっており、これら一つ一つが小さくとも、生徒と現地を円滑につなぐ働きをしていたものと自負している。このような配慮を経験値として学校に蓄積いくことは、今後の研修を有益なものにしていく上でとても重要だろう。

そしてまた、交流先が BBHS であることも、この研修において大きな意味をもつことだった。最初に述べたように、同校には本校の研修先として理想的とも言える環境が備わっている。このことは、話には聞いていたものの、実際に現地での体験や生徒の様子を見ていると、圧倒的であった。BBHS と交流できたことは、SGH 事業の中でも最も幸運な出来事の一つだったように感じる。事業終了後も、状況が許す限りこの連携を継続することには大きな意味があると考えている。



③平成30年度生（4期生）の活動

4月、対象学年の2年生に向けて、3期生の生徒（3年生）がオーストラリアの海外フィールドワークの内容報告も含めて、アドバンストコースの講座紹介を実施し、6月初めから募集を開始した。33名の希望者があり、6月11日に作文試験、12日～13日に作文内容と英語の面接試験を実施した。結果、19名を合格とし、6月19日に選考結果を発表した。以後、講座内容については以下のとおりである。

2018(H30)年度【第4期生】アドバンストコース講座内容一覧

回数	日程	曜日	内容
1	6月21日	(木)	未来創造会議に向けてのプレ発表会参観
2	8月30日	(木)	畝高祭発表に向けて
3	9月5日	(木)	畝高祭準備
4	9月13日	(木)	Aus積立説明 日米草の根交流参加者の発表参観
5	9月19日	(水)	短期留学者の報告発表
6	9月27日	(木)	海外研修旅行の準備（ジョホールバル学校交流）
7	10月4日	(木)	課題研究グループ分けに向けて 各発表会割り当て
8	10月25日	(木)	★留学生（Victoria）との交流
9	11月1日	(木)	★世界遺産教室(UNESCO 久保美智代 氏)
10	11月8日	(木)	海外フィールドワークの準備（送付書類「英文」作成）
11	11月15日	(木)	★国際理解講座(県国際課主催 NPO法人HANDs 理事 藤井千江美 氏)
12	11月22日	(木)	フィリピンの語学学校とつないでの英会話実践
13	11月29日	(木)	★京都大学への架け橋～シカに食われる日本の森林 (京都大学大学院農学研究科 長野 秀美 氏)
14	1月10日	(木)	海外フィールドワークに向けての課題研究 ①
15	1月17日	(木)	海外フィールドワークに向けての課題研究 ②
16	1月24日	(木)	海外フィールドワークに向けての課題研究 ③
17	1月31日	(木)	海外フィールドワークに向けての課題研究 ④
18	2月7日	(木)	海外フィールドワークについての詳細案説明等
19	2月14日	(木)	★国連世界観光機関 駐日事務所による英語講座 (同 アリアナ・ルキン・サンチェス 氏 / 鈴木 宏子 氏)

★は公開講座（アドバンストコース以外の生徒も参加可）

本年度は例年より活動時期を早め、7月の「未来創造会議」に向けての3期生のプレ発表から本格的な活動を開始した。この表にはないが、「未来創造会議」では、運営スタッフのリーダーとして、特に招いた留学生の案内等の役割を果たした。その後は課題研究を軸に交流計画や、外部から講師を招いての講演、ディスカッションを実施した。前年度までと同様に、外部講師を招く講座を中心に公開講座としてアドバンストコース以外の生徒にも案内をして参加募集を募り、本年度はおもに1年生が参加をした。以下におもな講座の内容を記す。

[講演]

- ・「UNESCO 世界遺産教室」(久保 美智代 氏 [フリーアナウンサー])

ユネスコ・アジア文化センターから派遣いただいた久保美智代氏による講演。世界遺産の保護の問題や負の世界遺産の紹介などユネスコの活動についてお話しいただいた。SDGs(持続可能な開発目標)の視点など、生徒にとっては今後の課題研究に活かせる視点があったと、参加者の感想に多く書かれていた。また、12月の全国SGHフォーラムに参加するグループの生徒は、講演が終わった後に特別に質問をさせていただき、彼らの発表に活かすことができた。



- ・国際理解講座「世界で一番命が短い国 シエラレオネの現状と課題

～ そこから考えた国際協力とは? ～

(NPO 法人 HANDs 理事 モリンガの郷 代表 藤井 千江美 氏)

県の国際課の方の協力も得て、JICA(国際協力機構)OGそして本校の卒業生でもあるNPO法人モリンガの郷代表藤井さんに、シエラレオネでの国際貢献活動について報告をいただき、その内容について質疑応答を行った。講演終了後も個人的に質問をする生徒も多かったが、生徒の質問の中に、「日本はシエラレオネに国際協力を行っています、日本もシエラレオネより学ぶことはあるのでは」というものもあり、生徒の視線の変化に講演者並びに同行されたJICAの方が感心をされていた。



- ・京都大学への架け橋「シカに食われる日本の森林～生態系のバランスが崩れたとき」

(京都大学大学院 農学研究科 長野 秀美 氏 [京都大学])

平成30年度京都大学高大連携学びコーディネーター事業「大学院生等による出前授業・オープン授業」により、京都大学大学院から農学研究科森林科学専攻の長野秀美さんを派遣いただいた。講演のテーマは「シカに食われる日本の森林～生態系のバランスが崩れたとき」というもので、現在、京都府内の森で起こっている異変の紹介を中心に、なぜそのようなことがおこるのかについて、具体的な研究の方法にもふれながらお話をいただいた。生徒達にとっては、課題研究の進め方のノウハウを学ぶ良い機会となった。



- ・「国連世界観光機関 (UNWTO) の方々による講演とディスカッション～持続可能な開発目標と観光～」

(「国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所 アリアナ ルキン サンチェス 氏、鈴木 宏子 氏)

アリアナ ルキン サンチェス 氏 (事業・広報部 課長) と、鈴木 宏子 氏 (代表補佐・国際部長) により標記の内容を英語でまず講演をいただいた。オーバーツーリズムの問題や旅行する側の心構えの問題など、生徒達が普段意識することがない視点を与えていただき、生徒達にとっては良い刺激となったようだ。その後は、SDGsの視点から観光を考えるということで3～5人のグループに分かれて意見交換を実施し発表を行った。生徒達も積極的に討議し、有意義な時間を過ごすことができた。



た。以下に、生徒の感想の一部を記す。

- ・難しかったけど、短い時間の中で自分が知っていることから課題解決の方法を見つけるという課題発見能力が、今後の研究を進めるのに役立つと思いました。
- ・どんな物事でも、広い視野、そして様々な角度から見ることの大切さを学べたことが今後の研究に役立つと思いました。
- ・海外に旅行する際に、旅行者が責任ある行動をとるだけでも、国連の SDGs の目標達成のゴールに近づけるということがわかりました。
- ・観光は全ての分野とつながっていて、良い影響を与えていることが印象に残りました。経済成長を重視し続けるのではなく、観光によってその地域の環境を守ることができるような観光が、これから大切だと感じました。
- ・いままでは観光発展が地元住民の生活の支障になるなら発展を抑えてもよいと思っていたが、観光の GDP に占める割合を知ったことによって、そのことは難しく、両立するという方向に考えが少し変わりました。



[課題研究]

アドバンストコースの生徒が5つのグループに分かれ、現在それぞれの研究を進めている。ジャンルとしては観光、異文化理解、環境問題などとなっている。今後は3月に実施するオーストラリアへの海外フィールドワークの際に、各自の現時点での研究内容を交流校のバイロンベイ高校の授業でプレゼン発表等をおこなって意見交換を実施するとともに、現地でのフィールドワークを通して各自の研究を深化させる。そして、その後は7月に実施される「未来創造会議」での発表を最終目標として研究を続けていくこととなる。

<成果と課題>

[成果]

- ・ 本年度もアドバンストコースの募集に際し、定員以上の希望生徒が集まったが、生徒の中にもこのコースが定着してきたようだ。選考は昨年度同様、英語によるコミュニケーション力とともに、どのようなグローバル課題に関心を持ちどのような研究を進めていきたいかということについての小論文を課し、その内容についての面談を行った。年々問題意識を持った生徒が多くなっており、中学校に本校のSGHの取組が浸透してきているように思われる。
- ・ 昨年度同様、7月の「未来創造会議」において、発表だけでなく、企画や運営面でも自主的に立案と進行を行った。
- ・ 本年度は、学校教育課の協力も得て、海外の語学学校とPCを通じて英語で話す機会を持つことができ、生徒達にとってもよい刺激となった。また、昨年度は開催地の関係で参加できなかった

た東アジア地方政府会合のエクスカージョンに参加することもでき、奈良県の観光に対する海外の人たちの意見を聞き取ることができた。

[課題]

- ・ 昨年度よりは機会は増えたものの、英語力の強化という点においてはもう少し、ネイティブの方々と話をする機会をもっと増やす必要があると考えている。今後、SGH事業が終了していく中で、「未来創造会議」の内容をはじめ、アドバンストコースが培ってきた取組を今後どのような形で変化をさせながら継続していくかが、来年度以降の大きな課題となる。

(10) 「未来創造」及び「未来創造会議」について

【「未来創造」について】(※「総合的な学習」の名称変更)

<仮説>

課題研究を、グループで主体にグローバルな視点から探究活動として深化させ、解決策等を提言することにより、問題を分析する論理的な思考力、企画力、対話力、表現力、プレゼンテーション能力が育成される。

<目的>

2年次の「現代の課題」で取り組んできた課題研究のテーマについて、他国の例を検討したり、他国と比較したりするなど、グローバルな視点から取り上げて深化させ、研究成果を具体的な提言の形で発表し(「未来への提言 Final stage」)、「未来創造会議」につないでいく。また、研究の方法・過程・結果とそれに基づく提言をレポートにまとめる。

<実施方法>

3学年、週1時間、全員履修。2年次で課題研究を行ったグループに基づいて、文型・理型ごとに「観光」「地域活性化」「伝統産業」「教育」「国際協力」「医療・福祉」「林業」「環境」「防災」のジャンル別合計91グループに編成。

月	学 習 内 容	
4	オリエンテーション (1 時間)	課題研究の目的と概要についての説明(教員・アドバンストコース生徒)を受けた後、各グループに分かれて年間計画を確認する。
5	課題研究の手直しおよびレポートの作成 ※未来創造会議発表代表グループは、上記	第2学年時に行った課題研究において、担当教員より指摘を受けた部分につき、修正および研究の深化をはかる。研究の成果がある程度整った時点でレポート作成に速やかに移行する。未来創造会議発表代表グループは、それに加えてポスター制作またはパ
6	に加えてポスター制作またはパワーポイントスライド制作(文型7時間、理型8時間)	ワーポイントスライド制作を行う。
7	「未来創造会議」の準備	発表代表グループによるポスター制作・発表原稿・パワーポイントスライド制作・リハーサル等。各係生徒による準備。
	「未来創造会議」	
9	「未来創造講座」研究内容の補強(4時間)	分野別の各担当教員による講座を行い、学習内容の補強を行う。
10		

＜成果および課題とその改善に向けて＞

・「現代の課題」で行った研究の成果物作成活動が中心となり、研究のさらなる深化を行うことは充分できたとはいえなかった。その過程で、生徒の文章表現力等に課題を見出すことができ、今後さらに指導方法改善の余地が見られた。物理的な課題としては、ワードファイルでレポートを作成している都合上、作業効率が悪く、生徒全員が効果的に活動したとはいえない。改善策としては、今後検討が必要になるが、大きく以下の3点の課題を解決していく必要がある。

- ① 「現代の課題」時点での課題研究の完結
- ② 早期段階での文章構成能力の構築
- ③ 物理的作業効率の改善と個々のレポート作成能力の養成

①+②については、「現代の課題」のカリキュラムを見直し、プレゼン発表とともにレポート作成についての指導も行っていく必要がある。とりわけ、来年度より第3学年のカリキュラムが改訂されるため、課題研究の成果物を作成するために、レポート作成を継続するならば第2学年のうちに完了しなければならない(来年度は「現代社会」、再来年は総合学習における「課題研究」)。③については、グループ内部でも作業の負担に大きな差があることもふまえ、レポート様式をマイナーチェンジし、手書きにすることも検討してよいと考える。また、出典の表記の仕方など、生徒自身が今後の進路においてレポートを作成する際に役立つスキルを身に付けさせることが必要である。レポート作成を継続するのかについても今後議論が分かれることが予想されるが、実態としてA0入試や推薦入試で、「未来創造」で作成したレポートを大学に提出している生徒も複数おり、入試の成果にも現れているので、レポート作成継続については前向きに検討したい。

・「未来創造講座」は、生徒それぞれの進路に応じて講座を選択させ、生徒それぞれが必要な学力を身に付ける機会となった。

【「未来創造会議」について】

＜仮説＞

海外交流校の生徒とのICTを用いた意見交換、並びに大学及び大学院への留学生を招いて意見交換を行う「未来創造会議」を生徒達が主体となって企画・運営・発表すること、また会議を通して新しい提言を発表することで、リーダーとしての自覚を養うことができる。また、その提言を次の世代が引き継いで研究と実践を進めていくことで、さらなる課題研究の深化と提言に基づく行動ができ、社会とのつながりを持つ中でグローバルリーダーとしての資質を育成することができる。

＜目的＞

生徒自身が会議の企画・運営を行い、課題研究に発表と提案を実施する。発表と提案にあたっては、海外交流校や大学及び大学院への留学生とも意見交換を行い、文化や言語が異なる人々との協働を通して発表と提案を行い、企画力や創造力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション能力、使命感などグローバルリーダーとして必要な資質を育成する。

＜内容＞

①会議に向けての準備

本年度は本番の「未来創造会議」で、文化創造館で舞台発表する3グループをアドバンストコー



スの中から、教室でポスターセッション発表する10グループは、2つをアドバンストコースから選び、8つは2月の「SGH研究発表会」の発表班を決定する際にすでに決めていた班が発表する形をとった。3期生（3年生）のアドバンストコースは5つのグループに分かれ、4月以降6月中旬まで原則毎週木曜日の放課後に課題研究を行った。6月21日にすべてのグループの発表を大会議室にて公開で実施し、研究内容やプレゼンテーションの方法などをみて舞台発表の3つのグループを選考した。2つのグループはポスターセッションにまわった。なお、司会はアドバンストコース生徒から有志で役割分担を行った。

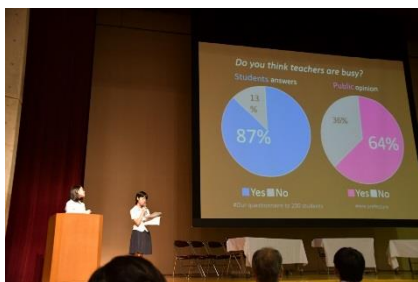
舞台発表に選ばれたグループの代表は、6月28日、奈良先端科学技術大学院大学を訪れ、同大学院の海外からの留学生との意見交換を行って、発表に向けての留意点やアドバイスをいただいた。それらを取り込んで修正したあと、7月14日、今度は同大学院の留学生に本校へ来ていただき、メンバー全員と意見交換を実施して、2週間後の「未来創造会議」に向けて発表内容の精選や発表方法の指導をいただいた。

②当日の発表

時 間	内 容	方 法
9:10～9:25	オープニング（日程説明）	代表生徒挨拶
9:25～10:50	第1部 未来への研究（発表10分、質疑・意見交換15分） 発表1 The catcher in Southern Nara 発表2 Rehappily Home 発表3 Work to live, Not to die ～We studied the current situation of Japanese teachers～	各発表・質疑・ 指導助言
11:05～11:55	第2部 未来への提案 ポスターセッション（各会場〔教室〕にて） ビデオ「SGHの5年間」（文化創造館）	各発表・質疑
12:10～12:30	第3部 未来への提言 発表「途上国での支援活動に関わって ～卒業生からのメッセージ」 関西学院大学2年 立田 理紗(平成28年度卒) 提言「未来への提言～Final Stage」	発表（卒業生） 発表（生徒）
12:30～12:40	フィナーレ（閉会行事）	学校長挨拶

ポスターセッションのテーマ

- ・“日本の英語教育～我々の未来につなぐ架け橋～”
- ・Fair Trade [AD]
- ・“待機児童問題～スウェーデン、すげえでん～”
- ・酵素と狭心症
- ・Moral education [AD]
- ・介護と保育の Revolution
- ・Share Farm
- ・“私たちが考える避難訓練 innovation～2018 ～”
- ・奈良県の林業活性化
- ・へき地と高齢化に伴う地域医療



当日は、2年生の生徒全員と1・3年生の希望者、そして4名の指導助言者と運営指導委員、そして県内高校の先生方と発表生徒及び育友会役員の保護者の方々の観覧をいただき文化創造館でのプレゼンテーション発表と意見交換、教室でのポスターセッションを実施した。文化創造館でのオープニングと第1部、第3部の提言はすべて英語、司会進行は英語と日本語、第2部は日本語と一部英語（要約と提言）で実施した。舞台発表とポスターセッションは3年生が担当、第3部の発表は平成28年度卒業生、記録や受付などの運営スタッフはアドバンストコースの2年生と1、2年のSGH委員が行った。

観覧した2年生は記録用紙の記入とアンケートを行った。以下はアンケートから抜粋である。

- ・普段目の当たりしている大きな課題だけでなく、気にかけてくれないような小さなことをテーマにしている、改めて色々なことに目を向けるべきだと実感した。大きな課題は解決するために工夫された提案を、小さなことについては具体的に発表が進んでいて今後の発表などをする機会の参考にしようと思った。
- ・私は1年生のときも希望して観覧したのですが、昨年より英語が理解できるようになっており、自分の成長を感じた。
- ・卒業生の先輩の話を聞いて、国際協力について知らなくても、行動することが大切だと思いました。行動すれば自分にとってもよい経験になると思いました。
- ・英語での発表だったので、内容をすべて理解したわけではないが、すべての発表が自分達に関わることで、これからの未来ですごく大切なことなので、ここで発表してもらった内容を忘れずに、この先の未来をより良いものにしていきたいと思いました。
- ・留学生からの英語の質問を聞き取って、英語で返せる先輩方はすごいと思った。英語を覚えることはもちろん大切だが、自分の発表したいことが本当に理解できているから出来るのだと思った。

<成果と課題とその改善策>

今年度の舞台発表生徒は、それぞれのテーマに対する課題意識が強く、英語は表現手段として用いて、自分たちの伝えたい内容を深めることができていた。ある発表生徒が、プレゼンテーションの準備段階で、自分の伝えたいことを英語化する中で、「英作文がこんなにも楽しいと思ったのははじめて」と言っていたことは指導する側としても、生徒が主体的に学び成長する姿を実感できた。ポスター発表においても、課題設定の動機が生徒に身近なものが増え、課題研究が自らのキャリアや生活と結びついてきた傾向が見られた。また、今年度は卒業生の報告をプログラムに導入したが、観覧生徒からの反響が大きかった。身近な先輩の海外ボランティアに関する報告に刺激を受けて、これからの学習や大学進学後の学びに意欲が湧いたという感想が多数見られた。卒業生の報告は、高校生活やSGHの活動をきっかけとして、世界で活躍する先輩の姿から刺激を受けてもらおうという意図があったので良好な成果が得られたといえる。

課題は、観覧生徒からの質問が出にくかったことがある。原因としては、発表生徒は3年生であったが、観覧生徒は2年生が中心であったため、精神的な敷居が高かった可能性、また、英語による発表であったので観覧生徒の理解度が充分ではなかった可能性が挙げられる。未来創造会議の目的の一

つに、先輩から後輩へと課題研究の取り組みを継承させることがあるので、未来創造会議の持ち方として今後、2年生の観覧生徒を参加させるような資料の提示および発表の方法、観覧生徒参加型の新規プログラムの導入などを検討する必要がある。

次年度からは、カリキュラムの改訂等もあり、いずれにしても未来創造会議の持ち方は変革せざるを得ない。変化のあり方として、規模を縮小するという考え方ではなく、生徒一人一人が関心を持って、主体的に参加できるような未来創造会議にしていくことが求められる。また、次年度入学生が3年生になる際には、本校の取り組みとしての課題研究のあり方も、現在よりも幅広く展開していく予定であるので、今後の未来創造会議は、その都度実態に応じて適宜変革をしていかなければならない。